

総合球技場検討委員会
報告書（案）

平成 28 年 12 月 日

目 次

1	はじめに	1
2	整備検討決定の経緯	2
3	整備に当たっての施策上の位置付け	3
	(1) 県有スポーツ施設整備の基本方針（平成 28 年 2 月）	3
	(2) リニア環境未来都市整備方針中間素案（平成 28 年 10 月）	5
4	総合球技場検討委員会の検討経緯	6
5	総合球技場のあるべきすがた	9
	(1) 立地の視点	9
	(2) 整備・運営の視点	9
	(3) 機能の視点	9
6	収容人数、施設機能などの基本的項目	11
	(1) フィールド寸法について	11
	(2) 収容人数について	13
	(3) 附帯機能について	23
7	整備・運営の考え方	30
	(1) 建設費について	30
	(2) 運営収支について	32
	(3) 整備・運営手法について	33
8	建設候補地	36
	(1) 建設候補地の選定の考え方	36
	(2) あるべきすがたからの 2 候補地の比較	40
■	委員会関連資料	54

1 はじめに

山梨県は、総合球技場の整備に向け、施設の機能・規模、整備手法、運営方法等を調査・検討するため、総合球技場検討委員会を平成28年6月3日に設置した。

本委員会では、これまでに6回の検討を行い、総合球技場の整備に関する事項を調査・検討し、広く議論を重ねてきたところであり、この度、その検討内容を報告書としてとりまとめた。

本報告書が、県が策定する総合球技場整備基本構想に可能な限り反映され、県民の理解を得る中で事業が推進されることを期待するとともに、建設費の充当財源の確保や効率的な整備・運営手法の導入に意を用いながら、山梨ならではの総合球技場として、早期に整備されることを願う次第である。

総合球技場検討委員会

委員長 佐々木邦明

2 整備検討決定の経緯

○平成26年4月

県サッカー協会、県ラグビーフットボール協会、県アメリカンフットボール協会、ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブが連名で総合球技場の整備についての要望書を知事に提出。

○平成26年9月

当該4団体が10万人に近い署名を知事に提出。

○平成28年2月

平成28年2月定例県議会において、知事が「整備を前提とした検討に着手する」旨を所信にて表明。

※知事所信

総合球技場は、全国規模のスポーツ大会等の会場となって、県民に夢と感動を与える場になるとともに、交流人口の拡大や地域経済への波及効果を創出し、今後、スポーツ振興のみならず地域振興を図る上で、重要な役割を果たすものと期待されるものであります。

また、これまでに、十万人近い県民の皆様から、総合球技場の整備を求める署名が県に提出されているところでもあります。

こうした総合球技場整備による波及効果や県民の皆様の声の高まりを踏まえ、明年度は、総合球技場を整備することを前提として、検討委員会を設置し、施設の機能・規模、建設場所、運営方法等の検討に着手して参ります。

また、建設場所については、総合球技場の機能が最大限に発揮できるよう、交通の利便性が高く、また、本県を象徴する地域となる、小瀬スポーツ公園周辺を含めた、リニア駅の近郊への整備を目指すこととし、リニア環境未来都市における施設として、位置付けて参りたいと考えております。

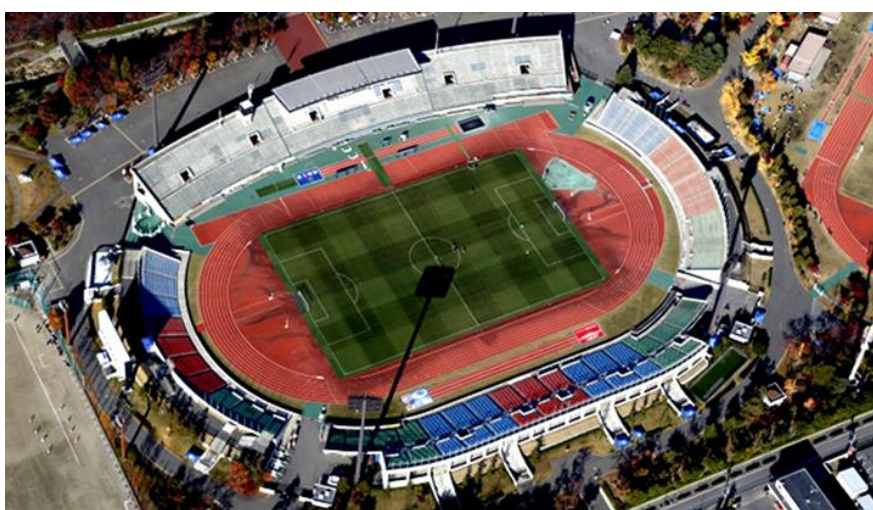
3 整備に当たっての施策上の位置付け

(1) 県有スポーツ施設整備の基本方針（平成28年2月）

昭和61年の「かいじ国体」開催に合わせて整備された県内のスポーツ施設の老朽化等に対応するための改修や新設要望のある施設の整備を、計画的に推進するための基本方針として山梨県教育委員会により策定された。

この基本方針の中で、総合球技場の新設が位置付けられた。

[参考 山梨中銀スタジアムの状況]



山梨中銀スタジアムの現況

形態	陸上競技場(第1種公認)(都市公園施設)
設置者	山梨県
指定管理者	(公財)山梨県体育協会
完成年	昭和60年
所在地	山梨県甲府市小瀬町
アクセス	甲府駅前南口より「小瀬スポーツ公園行き」路線バスにて約30分
敷地面積	34,825㎡
建築面積	11,108.23㎡ 地上4階(延べ床面積 16,482.09㎡)
収容人数	17,000人
施設内の集客施設等	—
近隣の主な施設	補助競技場、球技場、体育館、野球場、水泳場、庭球場、武道館、アイスアリーナ、クライミング場、芝生広場、レストラン
駐車場	普通車2,095台、大型車85台、身障者駐車場6台(第1～第5、アリーナ)

山梨中銀スタジアムの利用状況

利用可能日数	H26	H27(※)
	365	277
利用日数	264	243
上記のうちピッチ使用日数	85	83
○上記の内訳		
・サッカー(Jリーグ)	18	21
・サッカー(上記以外)	10	8
・ラグビー	2	2
・アメリカンフットボール	1	1
・グラウンドゴルフ	11	11
・陸上競技	39	35
・その他	4	5

※H27は、H27.12.6～H28.3.15の間改修工事のため使用不可

[参考]

県内の主な球技用施設

【資料2】

The map shows the outline of Yamanashi Prefecture with several black dots indicating the locations of sports facilities. Lines connect these dots to detailed photos and text boxes for each facility. The facilities are distributed across the prefecture, from the north to the south and west to the east.

- 山梨中殿スタジアム**
甲府市小瀬840
サッカー、ラグビー、
アメリカンフットボール
県立県営(指定管理)
- 山梨県総合公園陸上競技場**
甲府市緑ヶ丘2-8-1
サッカー
市立市営(指定管理)
- 富士北麓公園球場、陸上競技場**
富士吉田市上吉田立石5000
サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール
県立県営(指定管理)
- くぬぎ平スポーツ公園サッカー場**
富士河口湖町小立6816-2
サッカー
町立町営
- 日世南アルプススタジアム(衛形総合公園陸上競技場)**
南アルプス市桃園1600
サッカー
市立市営(指定管理)
- 御勅使南公園ラグビー場**
南アルプス市六科1588-2
サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール
県立県営(指定管理)
- 富士北麓公園球場、陸上競技場**
富士吉田市上吉田立石5000
サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール
県立県営(指定管理)
- 葦崎中央公園陸上競技場**
葦崎市藤井町北下條2531
サッカー
市立市営

(2) リニア環境未来都市整備方針中間素案（平成28年10月）

現在検討が行われているリニア環境未来都市整備方針の中間素案にて、リニア環境未来都市の創造に向けた取り組みの一つとして、総合球技場の位置付けが整理された。

総合球技場の位置付け

総合球技場は、全国規模のスポーツ大会等を通して、県民に夢と感動を与える場になるとともに、交流人口の拡大や地域経済への波及効果を創出し、今後、スポーツ振興のみならず地域振興を図る上で、重要な役割を果たします。

現在、総合球技場検討委員会において、総合球技場の機能や規模、整備・運営手法、駅周辺も含めた建設場所について検討しており、この検討内容を踏まえ、リニア環境未来都市にふさわしい施設に位置付けた上で、駅周辺施設との相乗効果が発揮され、効率的な整備となるよう、それぞれの施設の役割分担や整備内容などについて整合を図り、適切に整備方針に反映していきます。

[リニア環境未来都市の対象エリア]

対象エリアは、リニア駅を日常的に利用する人々の生活や行動を勘案し、リニア駅から4 km程度とする。

(一部抜粋)

4 総合球技場検討委員会の検討経緯

本委員会は、平成28年6月から平成28年12月にかけて、計6回の委員会を開催し、検討協議を行ってきた。各会議の開催日時および協議事項は以下のとおりである。第2回の委員会は現地視察を行っており、視察概要を併せて示す。

【第1回総合球技場検討委員会（平成28年6月3日）】

議題1：総合球技場の整備について

議題2：今後の検討委員会の予定について

【第2回総合球技場検討委員会（平成28年7月24日）】

現地視察会場1：南長野運動公園総合球技場



AC長野パルセイロ及び南長野スポーツマネージメント共同事業体（指定管理者）の案内により、ピッチ、スタンドのほか、一般者が立ち入ることのできない室内ウォームアップエリアやチーム更衣室、VIPラウンジなども調査した。

名称	南長野運動公園総合球技場
形態	総合球技場（都市公園施設）
設置者	長野市
指定管理者	南長野スポーツマネージメント共同事業体
Jクラブ	AC長野パルセイロ（J3）
完成年	平成28年3月（着工：平成25年12月）
所在地	長野県長野市
アクセス	JR篠ノ井線篠ノ井駅徒歩40分（タクシー10分）上信越道長野ICより車で役5分
ピッチサイズ	120m×80m（グラウンド 128m×90m）
建設費等	建設費約76.2億円（国補33.1億、県補5億、市債34.4億、一財3.7億）

J登録収容人数	15,000人（観客席：15,491席）
施設内の集客施設等	特になし
近隣の主な施設	野球場、プール、テニスコート等
駐車場	1,341台

現地視察会場2：松本平広域公園総合球技場



松本山雅FC 対 V・ファーレン長崎の試合が行われており、選手の息づかいやタックル音を間近で体感するとともに、選手と観客が一体となった雰囲気を感じること、ピッチと観客席が近いことから生まれる総合球技場ならではの優れた効果を確認した。

名称	松本平広域公園総合球技場（アルウィン）
形態	総合球技場（都市公園施設）
設置者	長野県
指定管理者	共同事業体（TOY BOX（松本土建㈱等））
Jクラブ	松本山雅FC（J2）
完成年	平成13年
所在地	長野県松本市
アクセス	篠ノ井線村井駅徒歩56分 長野自動車道塩尻北IC15分
ピッチサイズ	120m×80m（グラウンド 130m×90m）
建設費等	土地取得費13億円、建設費60億円（国補22億円、県費51億円）
J登録収容人数	20,396人
施設内の集客施設等	特になし
近隣の主な施設	陸上競技場、補助球技場、体育館等
駐車場	公園内駐車場

【第3回総合球技場検討委員会（平成28年8月25日）】

- 議題1：第1回・第2回の検討委員会のまとめ
- 議題2：今後の検討の流れについて
- 議題3：総合球技場のあるべきすがたについて
- 議題4：収容人数等基本的施設の規模について
- 議題5：施設に付加されている機能例について

【第4回総合球技場検討委員会（平成28年10月7日）】

- 議題1：総合球技場のあるべきすがたについて
- 議題2：リニア環境未来都市整備方針について
- 議題3：球技場の建設費、運営収支の概要及び整備・運営手法等について
- 議題4：建設候補地の選定の考え方について

【第5回総合球技場検討委員会（平成28年11月24日）】

- 議題1：整備候補地の比較

【第6回総合球技場検討委員会（平成28年12月21日）】

- 議題1：総合球技場検討委員会報告書（案）について

5 総合球技場のあるべきすがた

本県に整備しようとする総合球技場のありべきすがたについて、大きく立地の視点、整備・運営の視点、機能の視点の3つの視点に分けてとりまとめた。

(1) 立地の視点

山梨の強みを生かす

- リニア開業による立地の優位性を生かすものであること
- 周辺環境と調和した山梨らしいものであること

(2) 整備・運営の視点

県民の負担を軽減する

- 本県にとって適正規模となること
- 建設のための財源確保・効率的な運営手法を念頭に置くこと
- 利用用途を多様化し、収益の上がる仕組みを組み込んだものとする

(3) 機能の視点

県民の「見るスポーツ」などを充実するとともに地域の発展の可能性を拓ける

- サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなど幅広い競技を実施することができ、上質な臨場感・躍動感とその場の一体感を醸成し、観客やプレーヤーの満足感を高めるものであること
- 県民の交流の場となるとともに、広域交流人口の拡大を生み、定住や移住を促進できるものであること
- スポーツやイベントを通じて、地域経済への波及効果を創出し、本県の振興に大きく貢献するものであること
- 県民の健康増進に寄与し、高齢者や障害のある人なども気軽につどい、感動を共有できるものであること
- 若者に夢や希望を与え、県民のシビックプライド（山梨に対する誇りや愛着）を育むものであること
- 観光資源、スポーツツーリズムの拠点として滞在を促すものであること
- 山梨のランドマークとして、常に本県の新鮮な情報を国内外に発信できること
- 災害発生時に防災拠点としての役割を担い、地域の防災力を高めるものであること

[参考]

スタジアム・アリーナ改革指針について（抜粋）

（平成28年11月16日スポーツ庁）

1 改革指針の目的

- 政府が掲げる成長戦略である日本再興戦略2016の官民戦略プロジェクト10に、スポーツの成長産業化が位置づけられた。
- スタジアム・アリーナは、スポーツ産業の持つ成長性を取り込みつつ、その潜在力を最大限発揮し、飲食・宿泊・観光等を巻き込んで地域活性化の起爆剤となることが期待されている。
- この指針を通じて、スポーツの成長産業化を妨げている可能性のある、スポーツ施設に対する固定観念や前例主義等に関するマインドチェンジを促すとともに、スタジアム・アリーナを核とした官民連携による新たな公益の発現の在り方を提示する。

2 主な内容

(1) スタジアム・アリーナ改革の全体像

①スタジアム・アリーナの定義及び指針の位置づけ

- ・スタジアム・アリーナを、数千人から数万人の観客を収容し、スポーツを観ることを主な目的とする施設と定義。
- ・「スマート・ベニュー」の考え方を踏まえ、地域の実情に応じて検証を行うことが必要。

②スタジアム・アリーナ改革によって地域にもたらされるもの

- ・集客施設として地域のシンボルとなるとともに、新たな産業集積の創出につながる。また、スポーツ機会の増加や地域の社会課題解決等のスポーツの波及効果をまちづくりに活かすとともに地域のアイデンティティの醸成や不動産価値の向上など地域の持続的成長につながる。

③コストセンターからプロフィットセンターへの転換、民間活力を活用した事業方式・資金調達方式の導入

- ・中長期的な収支計画の検討等により、スタジアム・アリーナそのものの収益性を向上させ、公的負担を軽減しサステナブルなスタジアム・アリーナへ変革する。
- ・にぎわいの創出や持続可能なまちづくりの実現等により、投資以上の効果を地域にもたらし。
- ・多様な事業方式（PFI、コンセッション、公設民営など）・資金調達方式の活用・充実により、施設の充実やサービスの向上を図る。

④地方公共団体、スポーツチーム、国が意識すべきこと

- ・地方公共団体は、「観るスポーツ」の価値を認識し、整備の早期段階から継続的にスポーツチームと連携し、スポーツの価値を最大限活用するとともに、スタジアム・アリーナの運営面で柔軟な対応が求められる。
- ・スポーツチームは、経営体として集客力を高め、行政のパートナーとして、スタジアム・アリーナの使用法について具体的な助言をするなど協力するとともに、地域にもたらし公共的な効果を説明する必要がある。

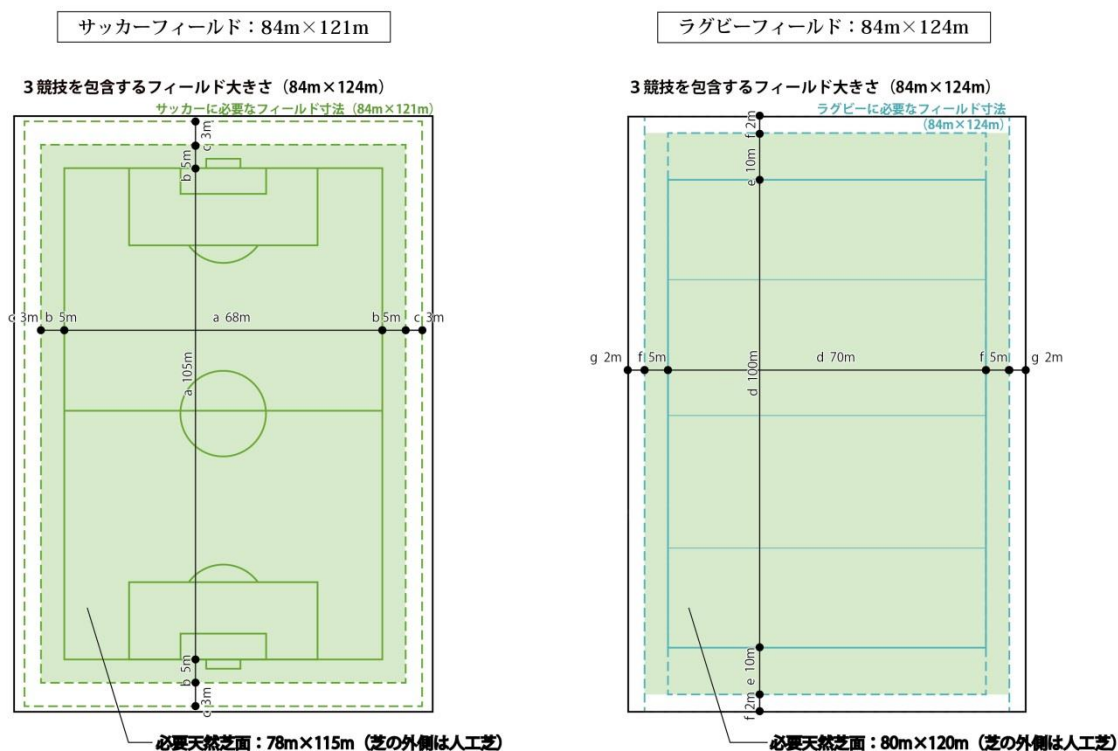
6 収容人数、施設機能などの基本的項目

(1) フィールド寸法について

主な競技種目として、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールを想定し、フィールド寸法についての検討を行った。

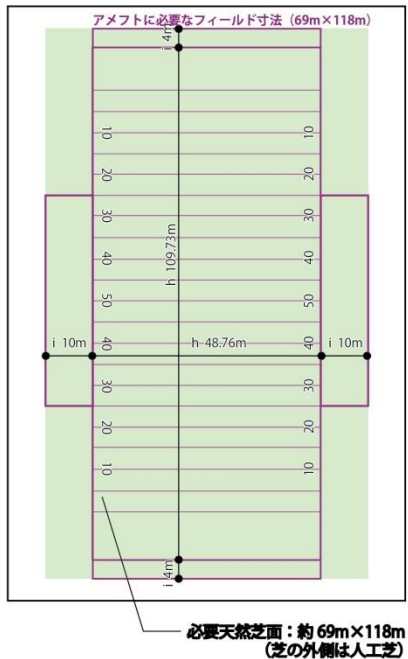
サッカーに関しては、「スタジアム標準（日本サッカー協会）」、ラグビーに関しては、「競技規則（ワールドラグビー）」、アメリカンフットボールに関しては、「アメリカンフットボール公式規則（日本アメリカンフットボール協会）」に基づきフィールド寸法を設定した。

これら3種の競技に必要となる必要フィールドを包括する寸法は**80m×120m**となる。この寸法に加える周辺区域に関しては、あるべきすがたにも示したとおり「上質な臨場感・躍動感がある場の一体感を醸成し、観客やプレーヤーの満足感を高める」ため、可能な限り、観客席からフィールドまでの距離を近づけることを考慮し、維持管理として必要な周辺区域として2～3m（芝刈り機の回転場）を確保することとする。



アメリカンフットボールフィールド：約 69m×118m

3競技を包含するフィールド大きさ (84m×124m)



3種のフィールド寸法

以上により、総合球技場の**基本のフィールド寸法は、84m×124m**とする。
なお、この寸法は、現在、日本プロサッカーリーグと日本ラグビーフットボール協会との間で調整が図られていることを付記する。

(2) 収容人数について

収容人数に関して、各種基準に基づく設定、他県の新設実績・新設計画からの推計などの点から検討を行った。

①各種基準に基づく設定

3種の競技における収容人数の基準は次のとおりである。3種の競技の条件を確認すると、サッカーにおける20,000人以上が各種基準に基づく設定からは必要条件となる。

ラグビー：トップリーグについては、規約で10,000人以上を条件に設定
アメフト：日本アメリカンフットボール協会においては、現在、規定は無い
サッカー：Jリーグ・日本サッカー協会の基準に基づきクラスごとに設定、以下に基準の詳細を記載

■Jリーグ・日本サッカー協会の基準

<Jリーグ「スタジアム検査要項（2015年度用）」>

- ・入場可能数は、Jリーグディビジョン1は15,000人以上、ディビジョン2は10,000人以上。

<日本サッカー協会「スタジアム標準」（特に新築における望ましいレベル）>

- ・（表2）により分類され、（表1）によりクラスごとに収容人数が定められている。
- ・クラス1を開催するためには、収容人数は20,000人以上が必要とされている。

（表1）クラス別収容規模（新設の場合）

	収容人員規模
クラスS	40,000人以上
クラス1	20,000～40,000人
クラス2	15,000～20,000人
クラス3	5,000～15,000人
クラス4	～5,000人

(表2) クラス別分類

クラス	対 象	
	主催	国内大会(リーグ)
クラスS	FIFA AFC JFA	FIFA クラブワールドカップ AFC チャンピオンズリーグ(決勝トーナメント) 日本代表(A, OP)公式試合 日本代表(A, OP)親善試合 Jリーグディビジョン1 Jリーグディビジョン2 天皇杯全日本サッカー選手権大会(準決勝・決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会(準決勝・決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会(決勝) 全日本女子サッカー選手権大会(決勝)
クラス1	AFC JFA	AFC チャンピオンズリーグ 日本代表(OP, U20, U-17)公式試合 日本代表(OP, U20, U-17)親善試合 Jリーグディビジョン1 Jリーグディビジョン2 天皇杯全日本サッカー選手権大会(3回戦～準々決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会(準決勝・決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会(決勝) 全日本女子サッカー選手権大会(決勝)
クラス2	JFA	日本代表(U20, U17)公式試合 日本代表(U20, U17)親善試合 Jリーグディビジョン2 天皇杯全日本サッカー選手権大会(3回戦～準々決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会 全日本女子サッカー選手権大会 地域リーグ決勝大会
クラス3	JFA	日本代表(U17)公式試合 日本代表(U17)親善試合 天皇杯全日本サッカー選手権大会(1回戦～3回戦) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会 全日本女子サッカー選手権大会 日本フットボールリーグ(JFL) 日本女子サッカーリーグ(Lリーグ)
クラス4	JFA 地域主催大会 都道府県大会	地域リーグ決勝大会 2次リーグ 地域リーグ決勝大会 1次リーグ 日本フットボールリーグ(JFL) 日本女子サッカーリーグ(Lリーグ) 各種別大会決勝

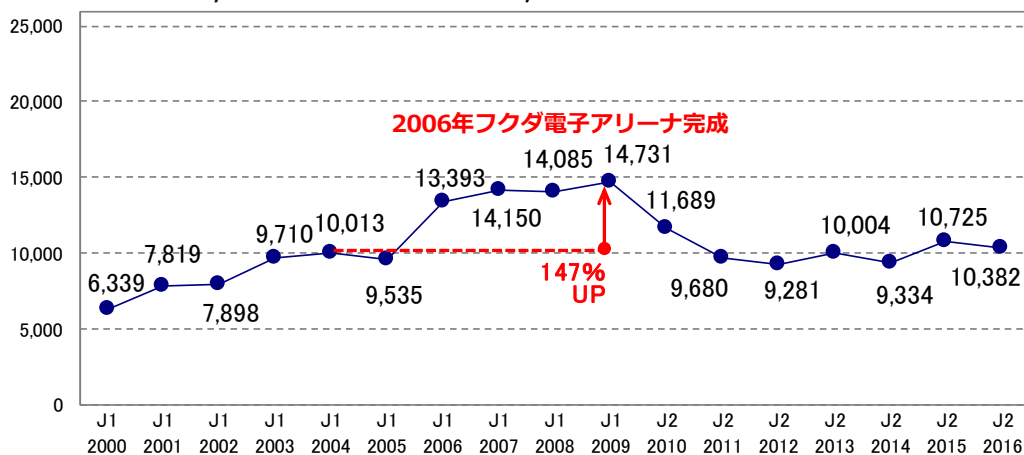
②他県の新設実績・新設計画からの推計

2005年以降に新設した球技場の新設前後の年間平均最多入場者数の増加率(i)及び、現在、球技場の整備計画が進行中の事例の計画収容人数と年間平均最多入場者数の関係性(ii)は以下のとおりである。

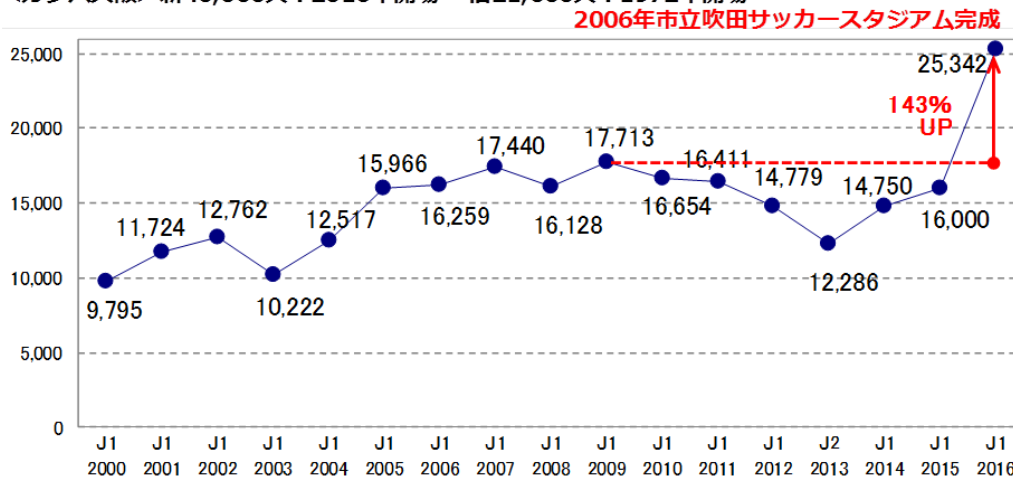
(i) 2005年以降に新設した球技場の新設前後の増加率

- ・フクダ電子アリーナ(2006)(ジェフ千葉)
⇒147%(2004年:10,013人→2009年:14,731人)
- ・吹田サッカースタジアム(2016)(ガンバ大阪)
⇒143%(2009年:17,713人→2016年:25,342人)
- ・南長野運動公園総合球技場(2015)(長野パルセイロ)
⇒140%(2014年:3,595人→2016年:5,018人)

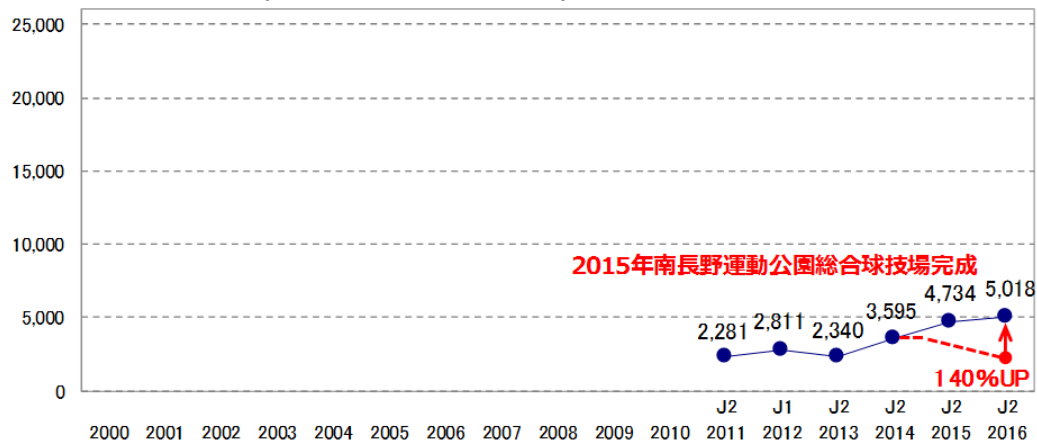
<ジェフ千葉> 新18,500人：2006年開場 旧14,051人：1993年開場



<ガンバ大阪> 新40,000人：2016年開場 旧21,000人：1972年開場



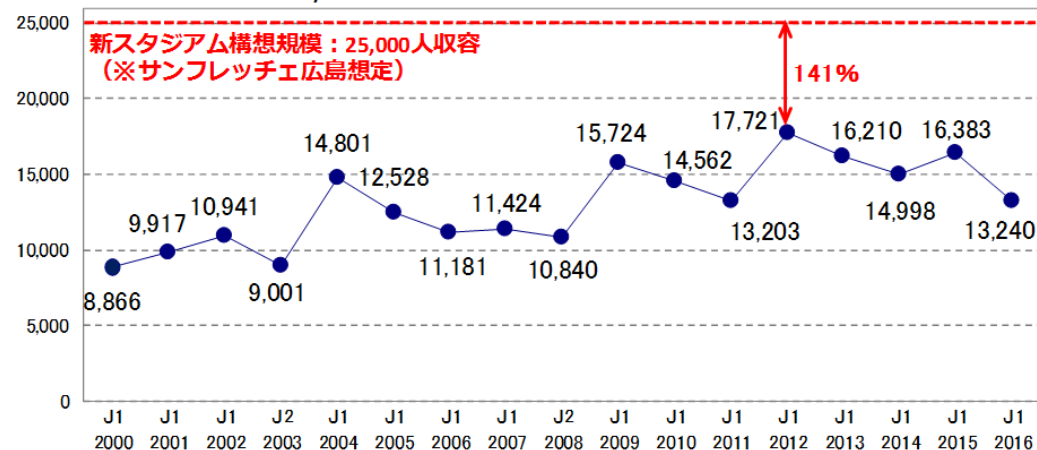
<長野パルセイロ> 新15,491人：2015年開場 旧6,000人：2002年開場



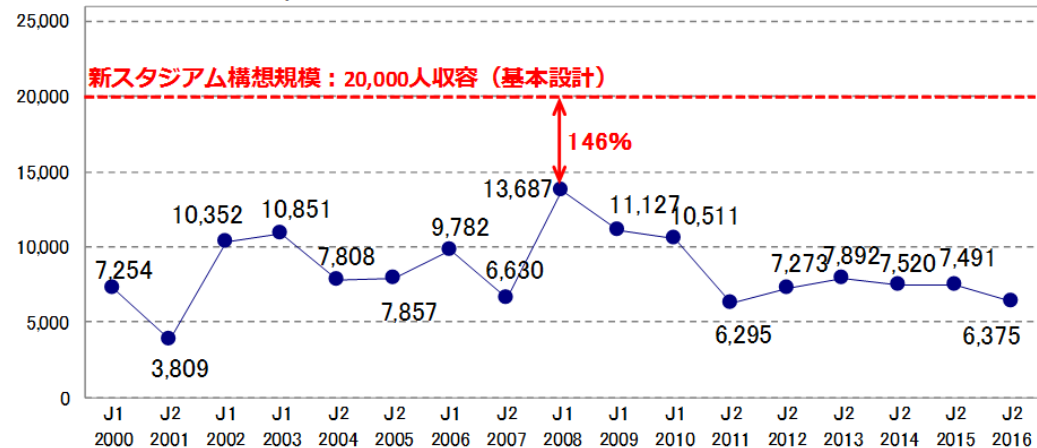
(ii) 球技場の整備計画が進行中の事例の想定規模と入場者数の関係

- ・ サンプレッチェ広島⇒ 141% (新スタジアムの想定規模は25,000席)
- ・ 京都サンガF.C. ⇒ 146% (新スタジアムの想定規模は20,000席)
- ・ モンテディオ山形⇒ 166% (新スタジアムの想定規模は20,000席)

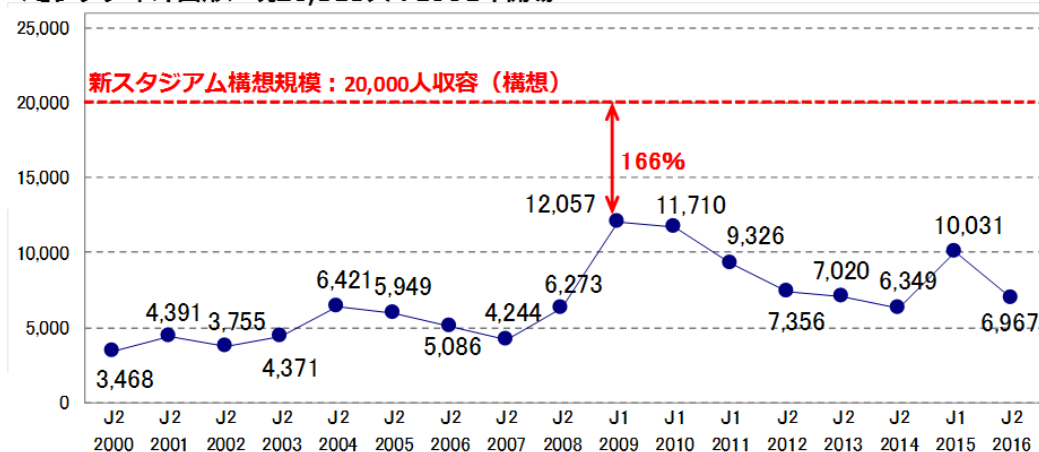
<サンプレッチェ広島> 現50,000人：1992年開場



<京都サンガF.C.> 現20,588人：1942年開場



<モンテディオ山形> 現20,315人 : 1991年開場



また、ヴァンフォーレ甲府の過去年間平均最多入場者数は12,406人(2010年)となっている。(2010年の最多入場者数は16,431人、過去最多入場者数は2006年の17,000人である。)

ヴァンフォーレ甲府の入場者数実績

年度	カテゴリー	入場者数	収容率	備考
2016	J1	10,854	63.84%	2ndステージ第8節時点
2015	J1	11,297	66.45%	
2014	J1	10,439	61.40%	2試合を国立競技場で開催
		12,171	—	
2013	J1	11,596	68.21%	1試合を国立競技場で開催
		12,614	—	
2012	J2	10,407	61.20%	
2011	J1	11,513	67.72%	1試合を国立競技場で開催
		12,106	—	
2010	J2	12,406	73%	
2009	J2	11,059	65.05%	
2008	J2	10,354	60.90%	
2007	J1	12,295	72.32%	1試合を国立競技場で開催
		13,734	—	
2006	J1	12,064	70.90%	1試合を松本平広域公園総合球技場で開催
		12,213	—	
2005	J2	6,799	39.99%	1試合を松本平広域公園総合球技場で開催
		6,931	—	
2004	J2	6,357	37.39%	1試合を松本平広域公園総合球技場で開催
		6,370	—	
2003	J2	5,451	32.06%	1試合を松本平広域公園総合球技場で開催
		5,796	—	
2002	J2	4,914	28.90%	
2001	J2	3,130	18.40%	
2000	J2	2,009	11.81%	1試合を富士北麓公園陸上競技場で開催
		1,850	—	
平均入場者数		8,975		
最大入場者数		12,406	2010年度	

※入場者数の2段書きの上段は山梨中銀スタジアム(小瀬スポーツ公園陸上競技場)のみ的人数を示す。下段はその他会場で開催されたホームゲームでの入場者数を含む。

※本県に新設する球技場の収容人数算定のため、他会場で開催された入場者数実績は除くものとする。

上記に整理した年間平均最多入場者数の増加率（i）及び、現在、球技場の整備計画が進行中の事例の計画収容人数と年間平均最多入場者数の関係性（ii）から、総合球技場新設に伴う収容人数の設定は、過去の年間平均最多入場者数の5割程度の増加となることがわかる。

この増加率をヴァンフォーレ甲府の過去年間平均最多入場者数に置き換えると約19,000人となる。

以上より、①各種基準に基づく設定として20,000人以上、②新設実績・新設計画からの推計として19,000人と整理され、収容人数20,000人程度が妥当であると考えられる。

〔補足説明：後背人口からの考察〕

現状のヴァンフォーレ甲府の試合における、来場者の動向について整理する。

〔委員の提言〕

収容人数の規模を考える場合、入場者数の80%から90%を30km圏内の居住者が占めるというJリーグの見解があり、半径30km圏内の後背人口の把握、そして、他のチームとの比較は重要となる。

ア) ヴァンフォーレ甲府のホームゲームにおけるホーム入場者率

- ・過去10年間の平均では、**92.5%**となっており、非常に高い。
(2015年におけるJ1・J2のリーグ平均は86.8%)

	日	リーグ	対戦相手	入場者数(人)	活動区域 居住率(%)
2015	6/27	J1	柏	11,019	91.8
2014	8/23	J1	G大阪	12,191	91.3
2013	8/17	J1	川崎F	12,657	91.6
2012	8/19	J2	松本	14,150	90.6
2011	8/6	J1	広島	11,193	91.9
2010	7/31	J2	東京V	12,523	92.9
2009	8/2	J2	横浜FC	12,107	94.1
2008	6/8	J2	草津	10,110	96.6
2007	10/6	J1	千葉	14,037	90.0
2006	10/1	J1	G大阪	15,462	94.2

出典：J.LEAGUE™ FAN SURVEY 2006～2015

イ) ヴァンフォーレ甲府のホームクラブ応援者のアクセス時間

- ・平均アクセス時間は34.1分
(J1・J2で3番目に短い、リーグ平均は51.0分)
- ・アクセス時間30分以内は、72.5%
(J1・J2で2番目、リーグ平均は44.3%)
- ・アクセス時間60分以内まで含めると、91.7%
(J1・J2で5番目、リーグ平均は80.4%)

ウ) スタジアム半径30km圏内の人口に対する来場者比率

- ・過去年間平均最多入場者数/スタジアム半径30km圏内人口
= 12,406人/約80万人 = **1.55%** と県内在住者の観戦率は、
他の球技場新設チームと比べ格段に高い。

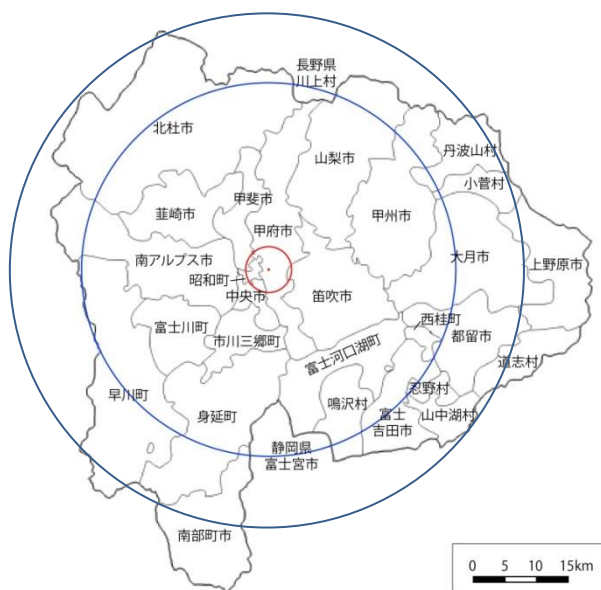
- ・スタジアム整備による増加率を例示した3事例の比率

・フクダ電子アリーナ(2006)(ジェフ千葉) : 増加率 147%
2004年: 10,013人 (0.16%) → 2009年: 14,731人 (0.23%)
・吹田サッカースタジアム(2016)(ガンバ大阪) : 143%
2009年: 17,713人 (0.15%) → 2016年: 25,342人 (0.21%)
・南長野運動公園総合球技場(2015)(長野パルセイロ) : 140%
2014年: 3,595人 (0.42%) → 2016年: 5,018人 (0.58%)

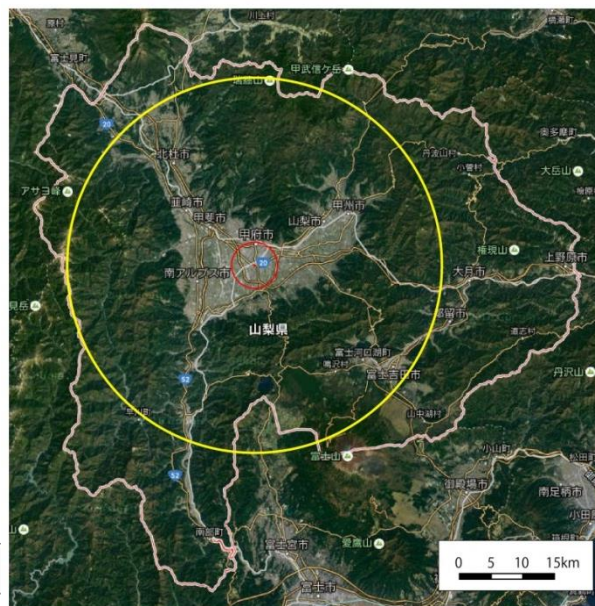
エ) 山梨県の人口配置 (リニア駅周辺の人口)

- ・半径30km圏内には、山梨県の県民の大部分が収まり、40kmでは全県がほぼ収まる。
- ・リニア駅の近郊である半径4km内のどこに配置しても、半径30km圏内の人口は大きく変化することはない。

リニア駅から半径30km及び40km圏内 (赤丸は、半径4km圏内)

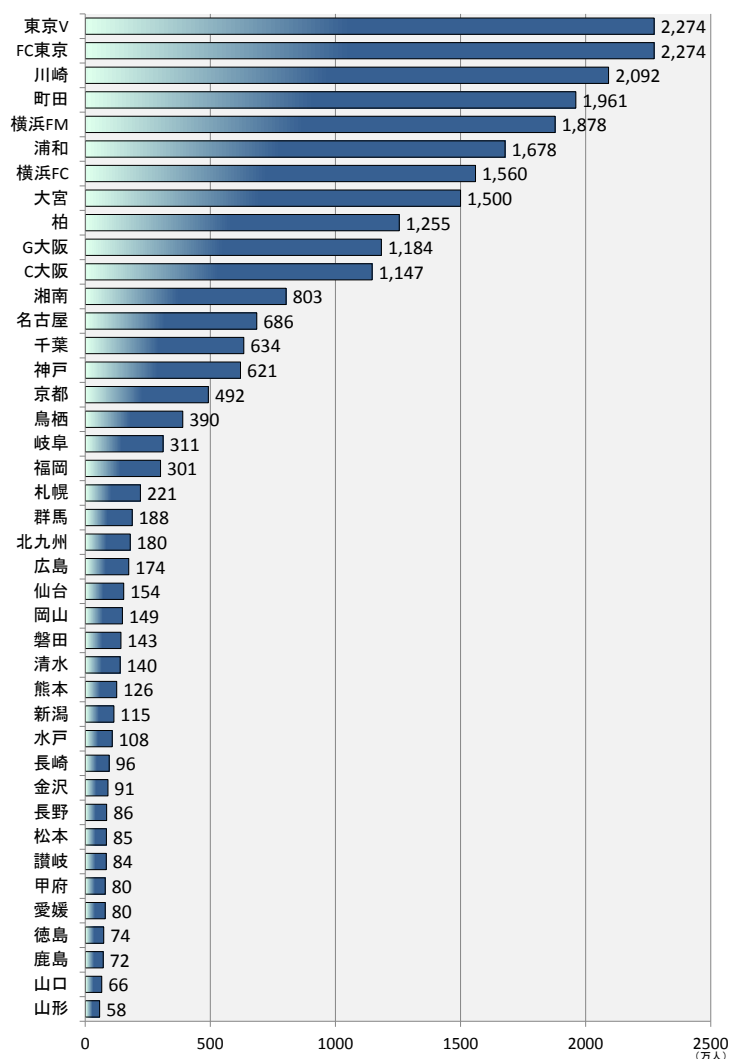


出典：日本総研作成



出典：Google マップより日本総研作成

スタジアム半径 30km 圏内人口



出典：住民基本台帳より日本総研作成

オ) 30km圏内人口と収容人数（席数）

- ・ J1チームの30km圏内人口における1人当たりの席数比率（席数／30km圏内人口）は、山梨中銀スタジアムは、2.13%となっている。（下表）
- ・ この数値を上回る広島、新潟、鹿島については、いずれもワールドカップ等大規模大会に合わせての改修や整備という特殊要因から席数が大きく設定されたものと考えられる。
これらを除けば、本県の山梨中銀スタジアムの人口に対する収容人数は、突出したものとなっている。

30km圏内人口と収容人数（席数）

	30km圏 内人口 (万人) A	収容人数 (席数) B	B/A (%)	備考
FC 東京	2,274	49,970	0.22	
川崎F	2,092	27,495	0.13	
横浜F	1,878	72,327	0.39	
浦和	1,678	63,700	0.38	
大宮	1,500	15,600	0.10	
柏	1,255	15,349	0.12	
G大阪	1,184	40,000	0.34	
湘南	803	15,200	0.19	
名古屋	686	41,255	0.60	
神戸	621	30,132	0.49	
鳥栖	390	25,000	0.64	
福岡	301	22,563	0.75	
広島	174	50,000	2.87	アジアカップ、アジア競技大会 直前に整備
仙台	154	19,694	1.28	
磐田	143	15,165	1.06	
新潟	115	42,300	3.68	ワールドカップ用に整備
甲府	80	17,000	2.13	
甲府	80	20,000	2.50	総合球技場（検討中）
鹿島	72	40,830	5.67	ワールドカップ用に改修

* 92%を超える高いホーム率の中、ホーム入場者は、概ね、アクセス時間60分圏内在住者であり、地元密着型のチームということが分かる。

また、30km圏内の人口に対する収容人数（席数）についても、他県の施設と比較した場合、突出した比率となっている（特殊要因のある施設を除く）。

このように、現在の山梨中銀スタジアムには、他県のチームに比べ、既に、県内の多くの方々が足を運んでいる状況があり、これに、総合球技場の新設効果やリニア駅の開設効果なども加味した場合でも、収容人数2万人程度の規模が妥当と言える。

(3) 附帯機能について

①附帯機能の国内事例一覧

J 1・J 2の56施設に関して、どのような附帯機能が導入されているのか整理した。機能の分類として、大きく「商業集客」「ビジネス」「生活」「その他」として整理した。また、「商業集客」に関しては、さらに飲食、物販、文化、宿泊として整理した。

機能分類	導入機能	箇所数	施設名	
商業集客	飲食	9	県立カシマサッカースタジアム、日産スタジアム、豊田スタジアム、万博記念競技場、ノエビアスタジアム神戸、エディオンスタジアム広島、レベルファイブスタジアム 他2箇所	
	物販	売店	56	全施設
		グッズショップ	12	埼玉スタジアム2002、NACK5スタジアム大宮、等々力陸上競技場、日産スタジアム、市立吹田サッカースタジアム、札幌ドーム 他6箇所
	文化	スポーツミュージアム	7	県立カシマサッカースタジアム、デンカビッグスワンスタジアム、豊田スタジアム、市立吹田サッカースタジアム 他2箇所
	宿泊	ホテル	1	ヤンマースタジアム長居 ※ユースホステル
研修施設		4	ノエビアスタジアム神戸、エコパスタジアム、鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム、ニンジニアスタジアム	
ビジネス	会議室	42	県立カシマサッカースタジアム、味の素スタジアム、Shonan BMW スタジアム平塚、山梨中銀スタジアム 他38箇所	
生活	フィットネス	17	県立カシマサッカースタジアム、埼玉スタジアム2002、日産スタジアム、Shonan BMW スタジアム平塚 他13箇所	
	診療所	1	県立カシマサッカースタジアム	
その他	スポーツ情報センター	1	ヤンマースタジアム長居	
	医療センター	3	ひとめぼれスタジアム宮城、日産スタジアム、デンカビッグスワンスタジアム	

②中小規模イベント等の実施

主要用途である、球技での利用以外に、イベント等の実施も想定される。ピッチ、スタンド・コンコース、スタジアム内会議室等、スタジアム周辺に分類し、代表的・特徴的なものを整理した。

ピッチ	スタンド・コンコース
<p>サッカー教室、芝生体験、芝生遊び</p>  <p>出典：味の素スタジアムホームページ</p>	<p>ビアガーデン、試飲会、試食会、BBQ、観光物産展、演奏会、体力測定イベント、プラネタリウムイベント</p>  <p>出典：サントリーホームページ（鹿島）</p>
スタジアム内会議室等	スタジアム周辺
<p>結婚式、成人式、ゲームイベント（めんこ大会等）、職業体験イベント、展示会（写真展等）</p>  <p>出典：日産スタジアムホームページ</p>	<p>フリーマーケット、企業展示会（車等）、ご当地グルメイベント、打ち上げ花火、ワークショップ（エコ体験等）</p>  <p>出典：味の素スタジアムホームページ</p>

③大規模イベント等の実施


近年5年間におけるJ1、J2のスタジアムにおけるコンサート等の大規模音楽イベントの実施状況を整理した。

現状では、芝生の管理や、屋根の有無の事情などにより、スタジアムでの大規模イベントは頻繁には行われていない。また、スタジアム規模のイベントとなると、主要都市をめぐるツアーとしての利用が多く、本県におけるイベント需要を考慮した検討が求められる。

施設名	設置者	実施回数	代表的なイベント (出演者)
ひとめぼれスタジアム	宮城県	年1日程度	嵐 (2015年)
味の素スタジアム	東京都	年3日程度	a-nation stadium fes (2016年)
日産スタジアム	横浜市	年3日程度	BUMP OF CHICKEN (2016年)
豊田スタジアム	豊田市	年1日程度	SKE48 (2015年)
神戸総合運動公園 ユニバー記念競技場	神戸市	2年に1日程度	サザンオールスターズ (2013年)
エディオンスタジアム広島	広島市	5年に1日程度	Mr. children (2015年)
札幌ドーム	札幌市	年4日程度	嵐 (2016年)
エコパスタジアム	静岡県	2年に1日程度	ももいろクローバーZ (2015年)
ヤンマースタジアム長居	大阪市	年2日程度	福山雅治 (2015年)

④特徴的な国内参考事例

附帯機能が導入されている中でも、県立カシマサッカースタジアムに関しては、運営者の工夫により、多くの機能が導入されている。イベント等も含め、県立カシマサッカースタジアムを参考事例として整理した。

カシマウェルネスプラザ、アントラージュスキンケア	
【写真】	
	
出典：カシマウェルネスプラザホームページ	
【概要】	【稼働状況】
<ul style="list-style-type: none">・スタジオプログラムや個別プログラムをはじめ、最新トレーニングマシンなど様々なカテゴリーで、地域住民の健康をサポートしている。・コンコースにはウォーキングスペースを設置している。<ul style="list-style-type: none">■月会費 5,000円 /月■1日利用料金 1,500円/日・エンviron・スキンケアシステムを取り入れ、一人ひとりの肌に関わるさまざまな情報をきめ細かに収集・分析し、一人ひとりの肌に合わせたスキンケアプログラムを提案している。<ul style="list-style-type: none">■エントリーコース 5,200円 等	<ul style="list-style-type: none">・会員数 750人程度・アクセスはほぼ車であり、周辺住民を中心に利用されている。・スタジオプログラムに人気がある。・日中の主婦層の利用と、夕方以降の仕事終わりの利用が主となっている。

カシマサッカーミュージアム

【写真】



出典：カシマサッカーミュージアムホームページ

【概要】

- ・アントラーズの歴史や 2002 年のワールドカップ に関する展示がされている。
- ・年中無休での営業を行っており、月に 10 日程度 バックステージツアーも開催されている。

■入館料(記念パス付き)

大人 300 円/小中学生 100 円

■バックステージツアー

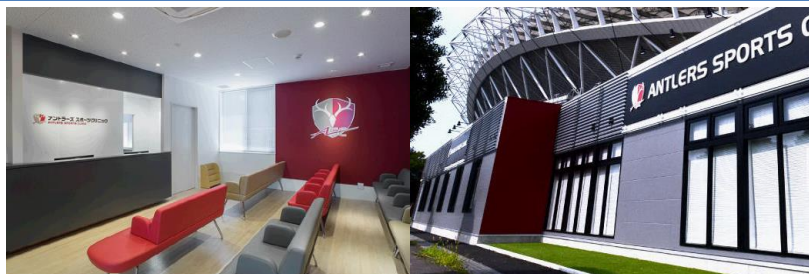
大人 1,000 円/小中学生 500 円

【稼働状況】

- ・夏季の団体客を中心に利用されている。
- ・当初無料であったが、現在は入館料を取っている。
- ・バックステージツアーを始め、収入は上がったが、利益が出る施設とはなっていない。

アントラーズスポーツクリニック（敷地内）

【写真】



出典：アントラーズスポーツクリニック

【概要】

- ・アントラーズ選手の健康管理、ケガの治療、リハビリテーションを行う中で培ったスポーツ医学のノウハウを駆使。
- ・アントラーズのチームドクターが中心となり、プロスポーツ選手はもちろん、スポーツ愛好者、さらには一般市民も含めて子どもから高齢者まで幅広い人々に高度な整形外科医療とリハビリテーションを提供
- ・スポーツ整形外科、整形外科、リハビリテーション科

【稼働状況】

- ・土地を貸付、賃料収入を得ている。
- ・アントラーズのブランド力とノウハウにより、周辺住民から、やや遠方からの来訪もある。
- ・日中は高齢者、夕方からは学生の利用が多い。

レストランカフェ（敷地内）

【写真】



出典：MAHALOホームページ

【概要】

- ・カシマサッカースタジアム敷地内 6 ゲート横に 2015 年 9 月にオープンしたハワイアンカフェ『MAHALO』
 - ・ハワイならではの料理はもちろん、地元鹿島港で朝獲れたばかりの魚を使った新鮮な料理や、女性が喜ぶ健康、美容に気を配ったオーガニック料理など、多彩なメニューが並ぶ。
- ロコモコ 980 円 など

【稼働状況】

- ・土地を貸付、賃料収入を得ている。
- ・スポーツクラブ後の利用者が主となっている。（スポーツクラブ利用者へのニーズ調査を行った上で整備が行われた）

ビアガーデン、フリーマーケット、オープスタジアム等

【写真】



出典：サントリーホームページ



出典：アントラーズホームページ

【概要】

- ・ビアガーデン開催期間は 7 月下旬から 9 月上旬の毎週木・金・土曜日。
- ・地元アマチュアバンドの生演奏をはじめとするステージイベントや、アウェイゲームのパブリックビューイングも行なっている。
- ・年数回、フリーマーケットを開催

【稼働状況】

- ・ビアガーデンの来場者は多く、年間 25 回実施している。
- ・出店店舗から売り上げに連動したロイヤリティを徴収している。

以上から、各施設においては、利用用途を多様化しながら、収益を上げる取り組みが行われている状況がある。

本県の総合球技場においても、建設場所やその周辺環境などを基本条件として、付帯機能の需要、イベントの需要等を考慮のうえ、それらに適した機能を付加した総合球技場として設計・整備し、最適な運用につなげることが望まれる。

後述の2箇所の候補地について、それぞれの建設場所等を考慮した場合に望まれる付帯機能を例示する。

- ・リニア駅前に整備する場合には、駅利用者等のための観光交流機能や産業振興機能
 - ・小瀬スポーツ公園周辺に整備する場合には、総合球技場利用者をはじめ様々な来場者のための飲食・物販などの集客機能
- などを検討することが望まれる。

また、ピッチやコンコース等を活用した様々なイベントの開催などの検討も望まれる。

7 整備・運営の考え方

(1) 建設費について

①近年整備されたスタジアム建設費について

最近10年程度の間に整備された4つのスタジアムに関して、建設費を整理した。

総工費は、80億円～140億円程度、席単価は352千円～606千円と、費用の開きがあることから、本県の財政状況等を踏まえた上で、建設地の条件や附帯機能等も十分考慮しながら検討することが望まれる。

名称		北九州 スタジアム	吹田サッカー スタジアム	南長野 総合球技場	フクダ電子 アリーナ
供用開始 年度		平成29年 3月	平成27年 9月	平成27年 3月	平成17年 10月
工事着手 年度		平成27年 6月	平成25年 12月	平成25年 12月	平成15年 12月
敷地面積 (㎡)		27,304	万博公園内	都市公園内	28,000
建築面積 (㎡)		10,859	24,762	13,963	16,037
延床面積 (㎡)	A	26,398	66,355	26,684	34,890
収容人数	B	15,581	40,000	15,491	18,729
面積 (一人当たり)	A/B	1.69	1.66	1.72	1.86
構造		地上6F	地上6F	地上4F	地上4F
屋根範囲		全席	全席	全席	全席
映像装置		1基	2基	1基	1基 (民間寄贈)
総工費 (百万円)	C	9,445	14,080	7,620	8,122
㎡単価 (円)	D : C/A	357,792	212,192	285,564	232,789
席単価 (円)	E : C/B	<u>606,187</u>	<u>352,000</u>	<u>491,899</u>	<u>433,659</u>

※総工費は用地取得費を除く

②建設費に関する財源内訳について

先に掲げた施設の内、現在整備中の北九州市を除く 3 施設について財源内訳を整理した。

各スタジアムの建設において、国等からの助成金が活用されており、本県の総合球技場整備においてもその活用が求められる。

ア) 吹田サッカースタジアム

総工費	140.8
スポーツ振興くじ助成金	30.0
法人寄附(延べ721社)	99.5
個人寄附(延べ3.4万人)	6.2
国助成金等	5.1
※ 寄附受入団体が建設後に市に寄附	

(単位：億円)

○スポーツ振興くじ助成金

- ・日本スポーツ振興センターが、くじの収益を財源として、地方公共団体が行うJリーグホームスタジアム等整備事業に対し助成
- ・国の補助金等を活用しようとする事業は、助成の対象外

イ) フクダ電子アリーナ

総工費	81.2
国庫補助金(防災関係)	9.0
市債	65.6
一般財源	6.6

(単位：億円)

○国庫補助金(防災関係)

- ・大規模災害発生時の救援、復旧等活动拠点として、40t飲料用耐震性貯水槽、防災備蓄倉庫、ヘリポート等を整備

ウ) 南長野総合球技場

総工費	76.2
社会資本整備総合交付金	33.1
県補助金	5.0
市債	34.4
一般財源	3.7

(単位：億円)

○社会資本整備総合交付金

- ・現状、都市公園・緑地等事業においては、大規模地震等に対する事前防災・減災対策やインフラ長寿命化計画を踏まえた老朽化対策の推進を図る事業に特化して重点配分
- ・都市公園として整備する場合は、国補(都市公園整備事業(用地1/3, 施設1/2))の充当が可能

(2) 運営収支について

収容人数2万人規模の他県の公共施設の運営収支について整理した。

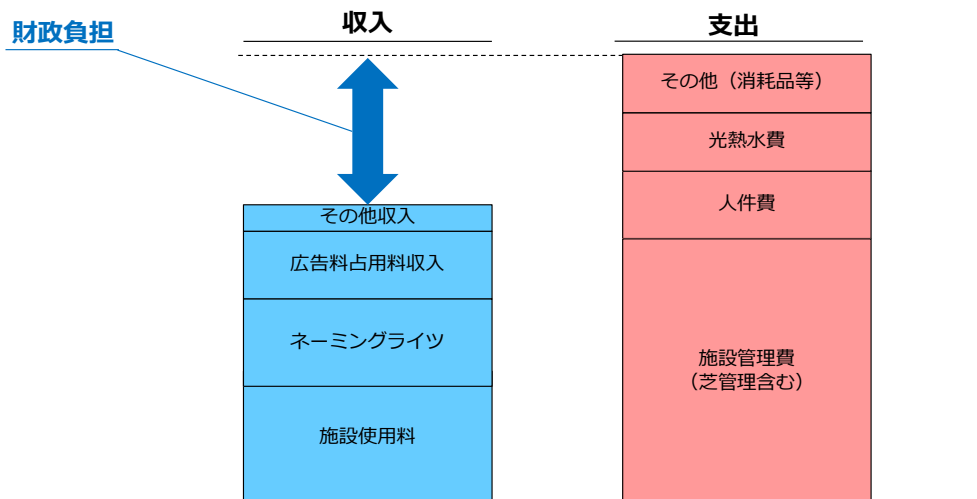
同規模であってもネーミングライツなどの収入、管理委託費や芝管理費等の支出の状況により収支に差が出ているが、いずれも支出超過となっており、運営維持のための負担は公共が担っている。こうしたことから、本県の総合球技場については、前述の国の改革指針を念頭に置く中で、ネーミングライツ等の増収等により公共負担を縮減していくことが求められる。

(単位：百万円)

		Aスタジアム	Bスタジアム	Cスタジアム
主な収入 (A)	施設使用料、広告料等	62	81	62
	ネーミングライツ	32	37	52
	計	94	118	114
主な支出 (B)	光熱水費等	22	24	30
	人件費	24	13	42
	管理委託費 (警備、清掃等)	62	57	31
	芝管理費	33	19	6
	改修・修繕費等	19	59	50
	計	160	172	159
(A) - (B)		△ 66	△ 54	△ 45

- ・施設への聞き取りによるものであり、具体名称の掲出はしていない。
- ・指定管理者が行う自主事業の収支は除く。
- ・ネーミングライツに係る収入は施設の設置者（地方公共団体）が、その他は指定管理者が収受する。

[参考 基本的な収支構造について]



(3) 整備・運営手法について

総合球技場の整備、維持管理・運営において想定される手法について整理した。

	公設公営	公設民営	P F I 方式	負担付き 寄附方式
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共が設計を実施の上、工事を発注 ・運営は公共が実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共が設計を実施の上、工事を発注 ・運営は、指定管理者制度により民間が実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間がS P C (特別目的会社) を設立し、この会社が設計、施工、運営までを一貫して実施 ・民間資金の活用が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間主体の寄附団体を設立し寄附を原資に施設の設計・施工を発注 ・寄附団体は、施設完成後公共に施設を寄附 ・運営は、公共から指定を受けた指定管理者が実施する
資金調達	公	公	公/民	民
設計・建設	公	公	民	民
運営管理	公	民	民	民
メリット	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計、施工に関し、公共に主導権がある ・低金利で資金調達ができる <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理、運営に対し、公共に主導権がある ・公共主体であり、公共性が確 	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計、施工に関し、公共に主導権がある ・低金利で資金調達ができる <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間ノウハウの発揮の余地が大きい ・行政コストの縮減が可能 	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計、施工に関し、民間ノウハウの発揮の余地が大きい ・運営や維持管理に視点をおいた設計、施工が可能となり、ライフ・サイクル・コストの削減が可能 ・財政支出の平準化が可能 <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間ノウハウの発揮の余地が大きい ・P F I 法により責任分担の明確 	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の財政負担が不要又は極めて少なくてすむ ・運営や維持管理に視点をおいた設計、施工が可能となり、ライフ・サイクル・コストの削減が図られる <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間ノウハウの発揮の余地が大きい ・行政コストの縮減が可能

	<p>実に担保される</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理運営責任が明確で信頼性・継続性が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間にとっては、施設整備への資金調達リスクが回避でき、良質なサービスの提供が可能 	<p>化等が規定されている</p>	
デメリット	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間ノウハウの発揮の余地が小さい ・財政負担の平準化が困難 ・業務ごとに分離発注となる <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間ノウハウの発揮の余地が小さい ・人員配置、雇用形態等について、事業拡大等への柔軟な対応に制約がある 	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間ノウハウの発揮の余地が小さい ・財政負担の平準化が困難 ・業務ごとに分離発注となる <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共にノウハウが蓄積されないおそれがある ・通常、契約期間が短期に設定されるため、長期的展望に立った継続的な取り組みの実施に制約が生じる場合がある 	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の主導権は限定的となる ・選定手続きに要する業務量が多くなる ・公共の資金調達よりも金利が高くなる <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の長期化によるサービスの硬直化が懸念される ・公共の意向を柔軟に反映されにくくなる 	<p>【整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備費をまかなうだけの寄附を集める必要がある ・設計、施工の段階で公共の意向が反映されない <p>【維持管理・運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共にノウハウが蓄積されないおそれがある

整備・運営手法については、整備事業の目的、収益事業の事業性、民間による資金調達必要性、計画から竣工までの時間的制約等、様々な要素からの判断が必要となる。

まずは、建設場所やその周辺環境等を運営の観点から整理し、附帯機能の需要、イベントの需要等を考慮のうえ、民間事業者の事業参画意欲を確認しながら、最適な整備・運営手法を採用することが望まれる。

また、

- ・ よほどの特殊要因がない限り、基本的に、初期投資やランニングコストを回収するのは難しいことをおさえておくべきであり、県の財政にとっての許容範囲をしっかりと認識しながら計画することが必要となる。
- ・ 多額の投資を上回る県民への効果が認められるのであれば、それを追求することも必要と考える。
- ・ 事業手法の検討に当たっては、公共施設等運営権方式（コンセッション）もリスタップすべきである。
- ・ 事業手法については、新たな発想による取り組みも必要であり、例えば、ピッチとメインスタンドは公共が所有し、バック・サイドスタンド等は民間が所有するという区分所有による手法等も考えられる。

などの意見が出されたことを付記する。

8 建設候補地

(1) 建設候補地の選定の考え方

建設候補地の選定に当たり、次の手順で検討を行った。

まず、検討委員会事務局が、候補地として考えられる土地を、リニア駅の半径4km圏内から10箇所ピックアップした上で、主な条件として設定した項目に基づき評価をするとともに、これに、「県民の意見を聴く会」に寄せられた意見や交通影響評価の結果も勘案し、2箇所の候補地案を抽出した。

検討委員会では、事務局が提示した2箇所の候補地案に対し、詳細に土地に対する内容を精査するとともに、前述の「総合球技場のあるべきすがた」に対しての評価を2候補地の比較という形で整理した。

【候補地抽出における主な条件】

収容人数：約2万人を想定

敷地面積：約9万m²を想定（本体3万m²+駐車場6万m²（約2千台分））

- ◆ リニア環境未来都市にあること（リニア駅から半径4km以内）
- ◆ 一団の用地取得が可能であること（住宅・事業所等が連坦していないこと）
- ◆ リニア駅等公共交通とのアクセスに優れていることを基本とすること
- ◆ 県有地等（取得予定含む）の活用可能性があること
- ◆ リニア開業時までには整備可能であること

[総合球技場について
意見を聴く会]で寄せ
られた意見の反映

[交通影響評価]結
果の反映

リニア駅前（リニア駅周辺整備地内）、小瀬スポーツ公園周辺の
2箇所の抽出

【2箇所の候補地比較の内容】

- ◆ 立地適性、用地取得などの候補地概要
- ◆ 総合球技場のあるべきすがたにおける3つの視点
 - ・ 立地の視点
 - ・ 整備・運営の視点
 - ・ 機能の視点

〔参考〕

◆「総合球技場について意見を聴く会」における県民からの主な意見

平成28年10月24日に開催された、意見を聴く会には62名の県民の方々に出席いただき、多くの意見交換がなされた。当初の定員（50名）を上回る応募には県民の関心の高さが伺える。

ここでは、主な意見として6つの内容について整理したものを示す。建設場所に関しては、「リニア駅前」「小瀬スポーツ公園周辺」の2箇所に対する意見が多くあげられた。

建設場所

《リニア駅周辺》

- 日本一駅から近い球技場、リニア駅にある唯一の球技場としてアピール
- リニア駅とスタジアムはランドマークであり集中配置することで効果の増加
- 県外からのアクセスの良さ。世界と「つながる」ことをアピール

《小瀬スポーツ公園周辺》

- 現駐車場の活用で、新たな用地取得を抑制
- 全国でも有数の集約型スポーツ公園

《その他》

- JR甲府駅周辺
- JRの駅から徒歩15分程度（酒折、石和温泉、竜王、韮崎）
- 東下条スポーツ広場
- 山梨大学病院付近の身延線沿線
- 甲斐市の丘陵地帯
- 富士山、南アルプス、八ヶ岳の見える場所 など

規模

- 2万人程度
- 2万人から2万5千人程度
- 2万5千人から3万人程度
- 身の丈に合った施設

交通

《駐車場》

- 十分な駐車場の確保
- 観光客やアウェイサポーター用の大型駐車場の確保 など

《交通機関》

- パークアンドバスライドによる移手段の確保
- 甲府駅とのアクセスの検討

併設施設・機能

《商業施設等》

- 観光、宿泊案内施設、ショッピングセンターや飲食店
- フットサル場などのスポーツ施設
- 老人ホームや保育所
- イベントや会議ができるスペース など

《防災施設》

- 非常時の避難拠点として、避難所、備蓄倉庫、スペース(駐車場)の確保

《その他》

- 有名アーティストによるコンサートの開催
- 子どもが遊べる芝生広場 など

球技場の設備

《試合観戦》

- 臨場感を優先し、ピッチを狭く、スタンドに勾配
- 座席は個席で、前後にスペース

《環境配慮》

- 太陽光発電など自然エネルギーを活用

《その他》

- 全面に屋根を設置
- 全ての人に優しい設備 トイレの確保 授乳室等の設置 音響の充実
- 訪日外国人への配慮 など

建設の時期

- できるだけ早期に建設

◆ 2 候補地への抽出過程の概要

リニア駅の半径 4 km 圏内からピックアップした 10 箇所の候補地すべてを提示することについては、地域への影響を考慮し控えることとした。

除外された候補地の評価内容を以下に示す。

- ・一団の土地はあるものの、その中に活用できる県有地が無かった。(2 箇所)
- ・一団の県有地ではあるが、現在、貸付けを行っており、貸付け期間の制約からリニア開業時までの整備が不可能であった。(2 箇所)
- ・一団の県有地等を含む土地ではあるが、土地の形状から建設に適さず、または、近隣に事業所、住宅等が点在するため、周辺環境への影響が懸念された。(4 箇所)

上記により抽出した候補地案として以下の2箇所を示す。

- リニア駅前（リニア駅周辺整備地内）
- 小瀬スポーツ公園周辺



(2) あるべきすがたからの2候補地の比較

土地に対する概要を整理し、前述している「総合球技場のあるべきすがた」に対しての評価を2候補地の比較という形で整理した。

①立地適性について

		リニア駅前 (リニア駅周辺整備地内)	小瀬スポーツ公園周辺
住 所		甲府市大津町	甲府市小瀬町ほか
現 況		リニア駅周辺整備地内の農地	小瀬スポーツ公園周辺の農地
土地利用規制		市街化調整区域、農振農用地内	市街化調整区域、農振農用地内
アクセス性	リニア駅から	リニア駅前	距離約3km 車での移動時間5分 (計画中の新環状道路東落合ICを利用した場合)
	甲府駅から	JR甲府駅・リニア駅間のバス交通の利用	主として路線バスを利用(公園内にバス停3箇所) 現在、試合開催日にはシャトルバスの利用も可能
	車でのアクセス	中央道スマートIC、新環状道路等を利用	小瀬スポーツ公園通り、けやき通りなど複数の道路を利用、将来は新環状道路の利用が可能
イベント開催時の周辺交通への影響		駅周辺への駐車場の分散配置、甲府駅等とのシャトルバスの増便、一時的な出庫制限等による試合終了後の大規模な渋滞の発生を抑制	シャトルバスの増便等により、試合終了後の大規模な渋滞発生を抑制
交通影響評価の解析結果		別紙	別紙

■別紙 周辺交通解析影響度評価

1 交通実態調査

(1) 調査の目的

山梨県甲府市周辺において新球技場の候補地検討を行うにあたり、Jリーグの試合開催日における候補地周辺の現況交通を把握することを目的として、自動車交通量調査を実施した。

(2) 調査日時

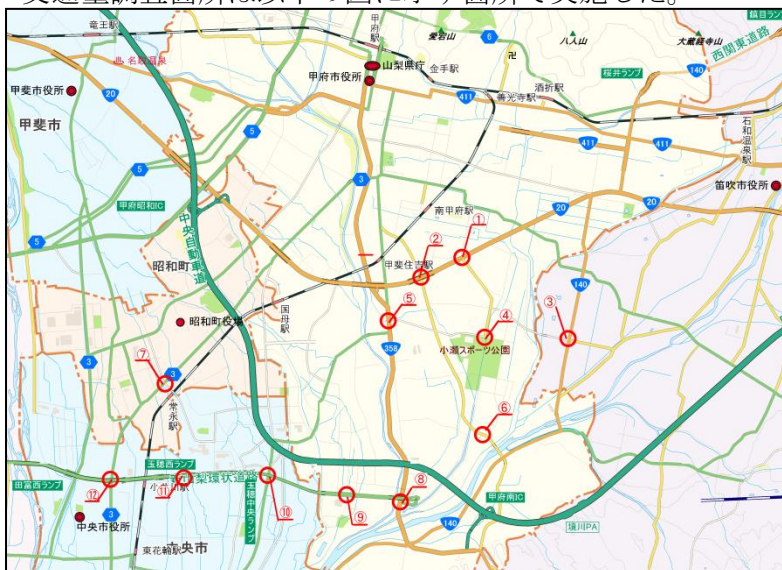
- ・ 日程：平成 28 年 9 月 17 日（土）
- ・ 時間：14：00～20：00（6 時間調査）
- ・ 試合時間：16：00～18：00

(3) 調査項目

項目	内容	箇所
自動車交通量調査	① 方向別交通量調査（2 車種区分） ② 断面別渋滞長調査 ③ 信号現示階梯調査（毎正時） ④ 交差点概況調査	12

(4) 調査箇所

交通量調査箇所は以下の図に示す箇所で実施した。



交差点	
①	小瀬スポーツ公園入口
②	下小河原
③	井戸
④	小瀬スポーツ公園前
⑤	南甲府署南
⑥	中道橋北
⑦	山梨大学病院入口
⑧	南部工業団地入口
⑨	大津町
⑩	玉穂中央ランプ
⑪	玉穂西ランプ
⑫	田富東ランプ

調査箇所図

2 アンケート調査

(1) 調査の目的

交通影響評価を行うにあたり、出発地・目的地の割合や試合前後の交通分担率等の設計条件を設定することを目的として、アンケート調査を実施した。

(2) 調査日時

- ・日程：平成 28 年 9 月 17 日（土）
- ・時間：14：00～20：00
- ・場所：山梨中銀スタジアム
- ・対象者：Jリーグ（対ベガルタ仙台戦）来場者（660名分回収）

(3) アンケート結果概要

アンケート結果を元に、下表の数値を分析における設定値とした。

No.	項目	分類	設定値
1	出発地の割合	県内	81.9%
		県外	18.1%
2	交通分担率（試合前）	県内	自動車：88.0% ※1 シャトルバス：3.6% その他：8.4% ※2
		県外	自動車：59.2% ※1 シャトルバス：30.1% その他：10.7% ※2
3	来場時間（ピーク時）	—	14時前（全体の48.4%）
4	目的地の割合（山梨中銀スタジアムからの移動先）	県内	88.1%
		県外	11.9%
5	交通分担率（試合後）	県内	自動車：88.6% ※1 シャトルバス：3.4% その他：8.0% ※2
		県外	自動車：54.8% ※1 シャトルバス：41.9% その他：3.2% ※2
6	退場時間（ピーク時）	—	18時台（全体の81.8%）
7	計画交通量（ピーク時1時間あたり）	—	試合前：1,750台/ピーク時間 試合後：3,000台/ピーク時間 （想定入場者数：13,000人）
8	ホーム・ビジター比率	—	9：1
9	同行者数	—	2人
10	シャトルバス台数	—	11台（VFKヒアリング結果、入場者13,000人時の運行台数）
11	応援バス台数	—	2台

※1：路線バス、タクシーの利用者も含んだ割合

※2：バイク、自転車、徒歩での来場・退場者を含めた割合

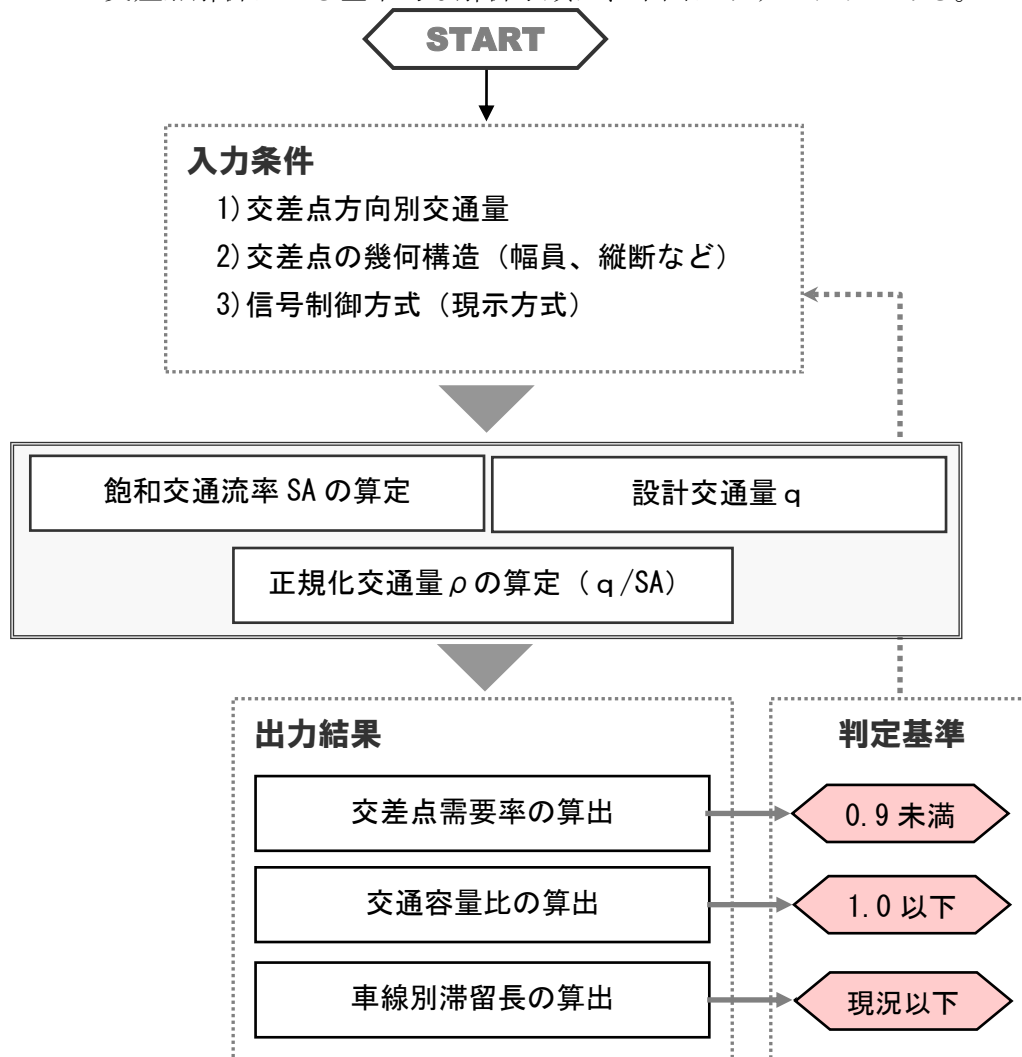
3 周辺交通影響度

(1) 評価手法

周辺交通影響評価の評価手法は、交差点解析を採用する。交差点解析とは、信号交差点が渋滞なく処理できるために、交差点形状、流入部の車道幅員等の幾何構造条件または物理的条件を踏まえて計算を行うものである。

(2) 解析フロー

交差点解析による基本的な解析手順は、下図に示すとおりである。



交差点解析のフロー

※交差点需要率：信号交差点単体（通常 1 時間単位）の交通状況を表す指標。需要率が 0.9 以上となると交通容量的に過飽和となり、設計交通量を捌くことができなくなる。

※交通容量比：道路の混雑状況を示す指標。交通量を交通容量で除したピーク 1 時間に対する混雑度である。

(3) 解析結果概要

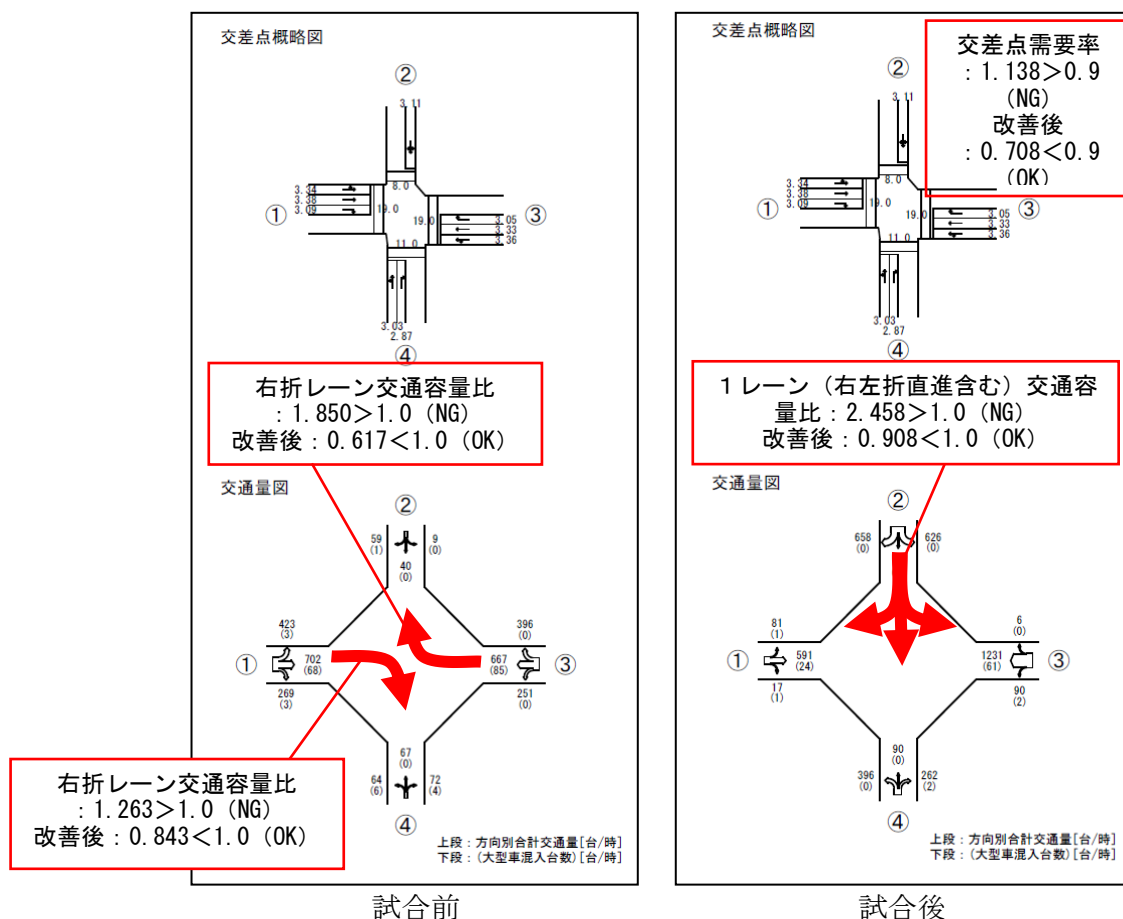
1 2 箇所の交差点を調査箇所として解析を実施した。これらは広く 10 箇所の整備候補箇所に対応し設定したものである。ここではそれらの中から、本委員会において抽出された 2 候補地における整備を想定した際の解析結果の概要を以下に示す。

① リニア駅前（リニア駅周辺整備地内）に整備した場合

- ・最も負担を受けるのは新環状道路大津町交差点となる。
- ・試合前には、交通容量比が右折レーンの 2 箇所でオーバーする。
- ・試合後に関しては、交差点需要率が基準を超え、交通容量に関しても、1 箇所でオーバーする。

ア. 大津町交差点

交通容量比が基準値をオーバーした箇所を赤線で表記した。



①至南アルプス市 ②至甲府市堀之内町 ③至国道358号 ④至南部浄化センター

■改善方法

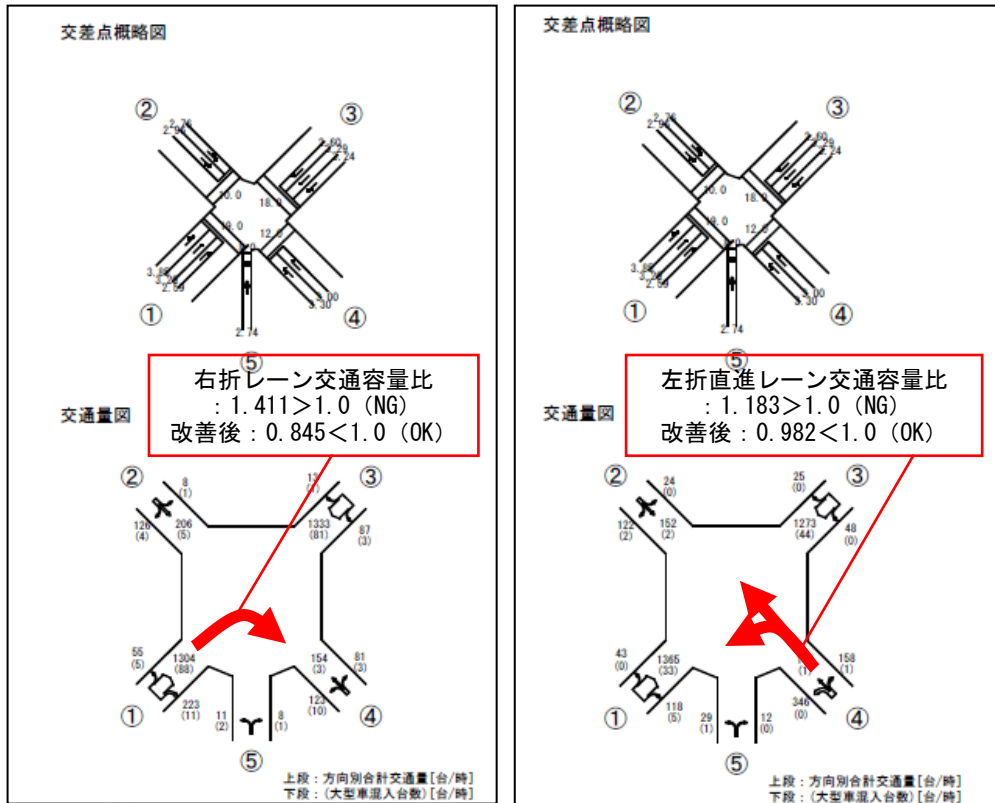
- ・ 駅周辺への駐車場の分散配置、甲府駅等とのシャトルバスの増便、一時的な出庫制限等による試合終了後の大規模な渋滞の発生を抑制することが求められる。
- ・ 特に、試合前後、ともに渋滞が予想される大津町交差点においては、レーンの増設や、右折レーンの車両の通過時間を十分確保するなどの改良を加えた場合、交通容量比は1.0以下となり、大きな混雑を避けることができる。

②小瀬スポーツ公園周辺に整備する場合

- ・ 国道20号小瀬スポーツ公園入口交差点及び国道358号南甲府署南交差点に負担がかかる。
- ・ 小瀬スポーツ公園入口交差点では、試合前試合後ともに、交通容量比が1箇所でもオーバーする。
- ・ 南甲府署南交差点では、試合前の交通容量比が1箇所でもオーバーする。

ア. 小瀬スポーツ公園入口交差点

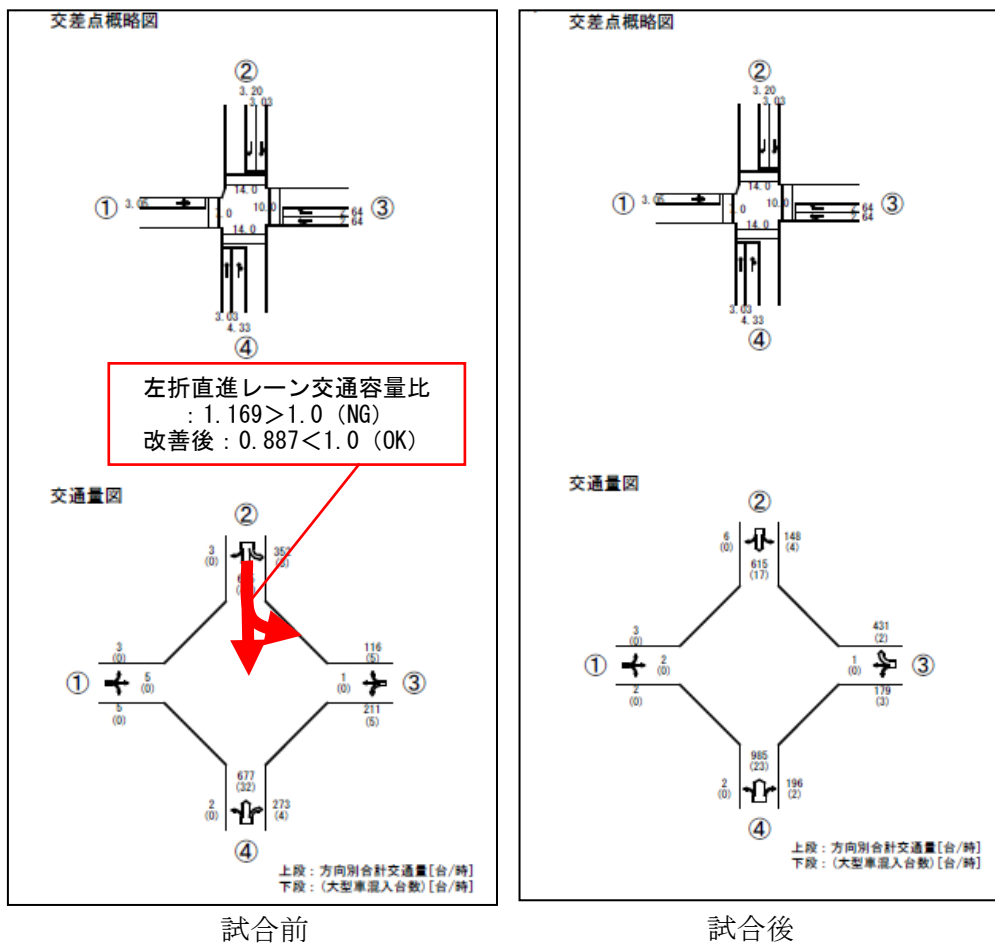
交通容量比が基準値をオーバーした箇所を赤線で表記した。



- ①至甲斐市 ②至甲府市青葉町 ③至笛吹市 ④至小瀬スポーツ公園
⑤至甲府市上町

イ. 南甲府署南交差点

交通容量比が基準値をオーバーした箇所を赤線で表記した。



①至甲府市上今井町 ②至甲府駅 ③至小瀬スポーツ公園 ④至甲府南 I C

■改善方法

- 試合終了時、小瀬スポーツ公園周辺の道路が一時的に混雑するが、長時間にわたり混雑が続く可能性は小さい。
- 交通容量比が基準を越えているレーンの車両の通過時間を十分確保するなどの改良を加えた場合、交通容量比は 1.0 以下となり、大きな混雑を避けることができる。
- 合わせて、シャトルバスの増便等を行うことでさらに混雑を軽減できると考えられる。

4 リニア駅周辺に係る具体的な交通状況の解析

リニア駅周辺については、駅周辺整備地内に総合球技場を整備した場合、総合球技場利用者ばかりでなく、リニア駅利用者を含めた新たな交通需要が発生することから、上記調査に加え、総合球技場周辺に駐車場を整備することと仮定して、試合終了後のピーク時における具体的な交通状況の解析を行った。

(1) 調査内容

Jリーグの試合終了後の、総合球技場駐車場からの出庫による周辺交通への影響について解析を行う。なお、解析の前提となる道路については、リニア駅やスマートICの開業時に想定される車線数とした。

(2) 駐車場の設定の考え方

・3の解析では、試合後は3,000台と見込んだが、ここでは、周辺交通への影響をできる限り軽減することを念頭に置き、小瀬スポーツ公園の駐車場台数2,000台と同規模を想定した。その他の車利用者は、小瀬スポーツ公園と同様、周辺地域に確保する臨時駐車場を利用することを想定した。

[小瀬スポーツ公園の状況] ⇒ 公園内駐車場 約2,000台
周辺地域に臨時駐車場 約800台

・リニア駅の周辺に2,000台の駐車場を設定する。

(設置を仮定する駐車場の内訳)

リニア駅周辺整備地内 (総合球技場用)	500台
〃 西側 (総合球技場用)	500台
〃 南側 (総合球技場用 (臨時駐車場))	500台

⇒総合球技場利用者分合計1,500台 (A)

(残り500台は、大津町交差点に影響を与えない近隣地域に設ける)

パークアンドライド駐車場 (リニア利用者用) 500台 (B)

(A) + (B) = 2,000台

(3) 解析結果

2,000台設定の場合、最も負荷のかかる大津町交差点において、交差点の平面改良 (レーンの増設) を行った場合、試合後約1時間は、出庫に時間を要するものの大きな混雑は発生しない結果となった。

[改良後の交差点需要率] 0.702 < 0.9

(4) 課題

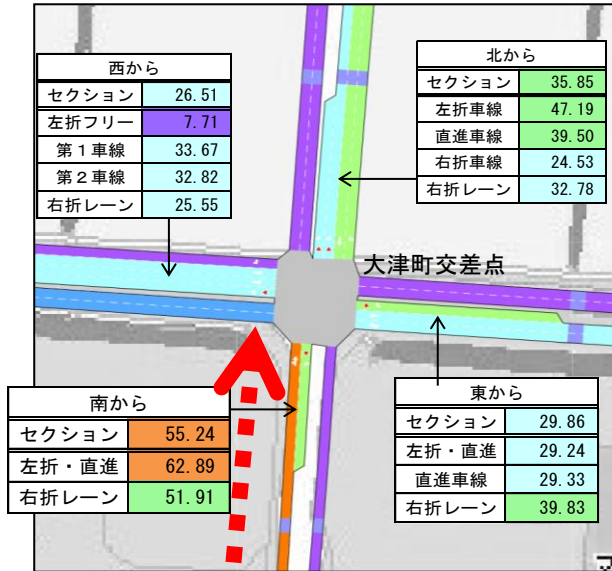
リニア駅周辺地域への臨時駐車場の分散配置とともに、シャトルバスの運行、乗り合いの徹底など、リニア駅周辺整備地内への車の流入を極力抑制する取り組みが必要になる。

解析結果

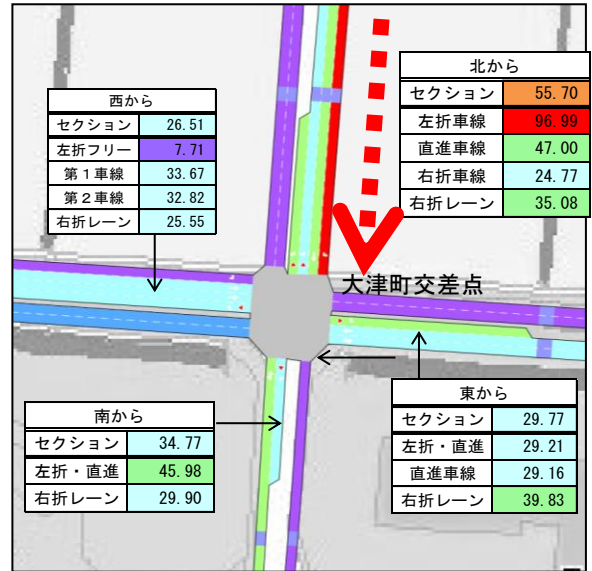
試合終了後、1時間かけて出庫した場合

◆現道路路計画 **大津町交差点で渋滞が発生**

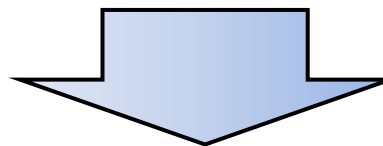
北からの左折車を優先させたケース



南からの右折車を優先させたケース

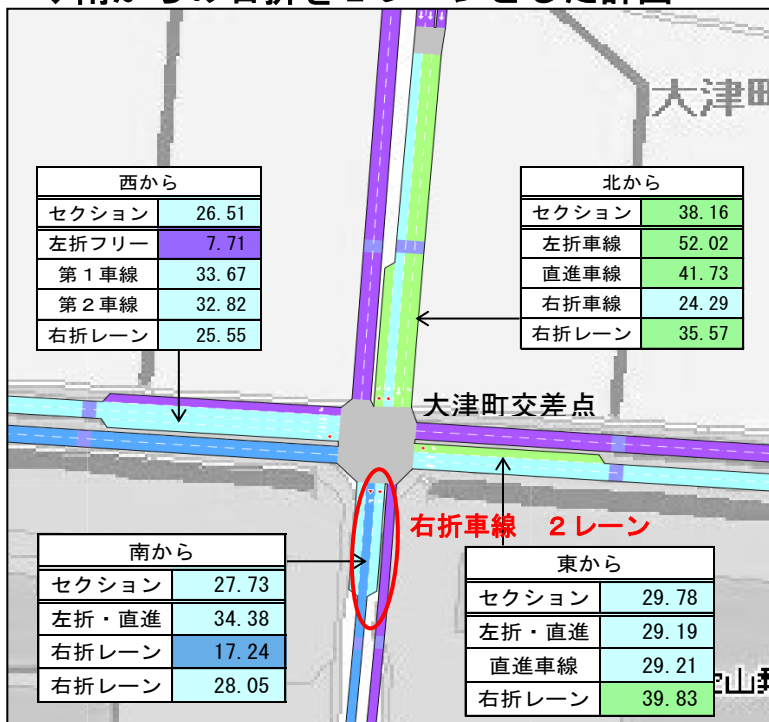


北からの左折車を優先させると、南からの滞留が長くなる。 南からの右折車を優先させると、北からの滞留が長くなる。



南側の右折車線を2レーンにすることで混雑が解消

◆南からの右折を2レーンとした計画



大津町交差点で大きな混雑は発生しない。

一斉に出庫した場合、駐車場からメイン通り（南北道路）に繋がる生活道路に渋滞が発生し、影響が出る恐れがある。

■信号交差点のサービス水準：HCM2000*

サービス水準	平均遅れ時間 (単位：秒/台)
A	10以下
B	10～20
C	20～35
D	35～55
E	55～80
F	80以上

←都市部の基準

②用地取得について

	リニア駅前 (リニア駅周辺整備地内)	小瀬スポーツ公園周辺
取得が必要となる面積	リニア駅周辺整備地外に必要な最小限の駐車場の確保を検討	約30,000m ² (本体分) 整備地の形状等により取得面積は増減する
県有地等の活用 (取得予定含む)	リニア駅周辺整備と一体で球技場本体及び駐車場を整備(アイメッセ駐車場の一部等を臨時駐車場として活用することも検討)	小瀬スポーツ公園駐車場(約2千台分)を利用

③比較検討

2 候補地に対し、3つの視点から整理した、総合球技場のあるべきすがたに対しての比較検討を行った。比較表において、メリットや課題を整理し比較を行った。

ア) 立地の視点

あるべきすがたで示された立地の視点に対して、2 候補地における比較を行った。

総合球技場の あるべき姿	リニア駅前 (リニア駅周辺整備地内)	小瀬スポーツ公園周辺
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅及び中央自動車道との直結により、県内外からの来訪者にとって非常に利便性が高く、広域からの集客性は高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、リニア駅から車で約5分（新環状道路利用を想定）と利便性が高まることで、リニア駅近郊における総合的なスポーツ拠点の主要施設として活用が図られる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備に当たっては、都市計画などの土地利用計画との調整を図る必要がある。 ・施設の配置は、リニア駅周辺の発展性、総合球技場利用者やリニア駅利用者の利便性、地域住民の生活環境などに配慮して計画することが求められる。 ・試合直後は、車、人ともに混雑するため、地域住民やリニア駅利用者等への配慮が求められる。 ・近隣の住宅等への騒音等防止の配慮が必要になる。 ・リニア駅開業前に総合球技場が完成した場合、JR 駅等からのアクセス確保が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の整備に当たっては、都市計画などの土地利用計画との調整を図る必要がある。 ・施設の配置は、小瀬スポーツ公園との連携、総合球技場利用者やリニア駅利用者の利便性、地域住民の生活環境などに配慮して計画することが求められる。 ・試合直後は、車、人ともに混雑するため、地域住民や試合観戦者以外の利用者等への配慮が求められる。 ・近隣の住宅等への騒音等防止の配慮が必要になる。 ・リニア駅からの公共交通機関のアクセス確保が必要となる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・試合等の開催日には、車での来場者のため、十分な台数が収容できる臨時駐車場を確保する必要がある。その場合、可能な限り交通渋滞が発生しない場所に分散して確保するなどの配慮が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試合等の開催日には、車での来場者のため、十分な台数が収容できる臨時駐車場を確保する必要がある。その場合、可能な限り交通渋滞が発生しない場所に分散して確保するなどの配慮が求められる。
--	---	---

イ) 整備・運営の視点

あるべきすがたで示された整備・運営の視点に対して、2候補地における比較を行った。

総合球技場の あるべき姿	リニア駅前 (リニア駅周辺整備地内)	小瀬スポーツ公園周辺
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅周辺整備と総合球技場の整備が一体化することで財政負担の軽減につながる。 ・リニア駅直結の総合球技場としてのネーミングライツの価値が高まり、収益の増加につながることを期待できる。 ・リニア駅周辺の観光交流機能等との一体化を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小瀬スポーツ公園と一体的に管理運営を行うことで、効率化につながる。 ・総合的なスポーツ拠点にある総合球技場としてのネーミングライツの価値が高まり、収益の増加につながることを期待できる。 ・スポーツを中心とした機能を集約する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅周辺に整備する効果が最大限発揮できるよう、最適な整備、運営手法の導入に配慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的なスポーツ拠点に整備する効果が最大限発揮できるよう、最適な整備、運営手法の導入に配慮する必要がある。

ウ) 機能の視点

あるべきすがたで示された機能の視点に対して、2候補地における比較を行った。

総合球技場の あるべき姿		リニア駅前 (リニア駅周辺整備地内)	小瀬スポーツ公園周辺
集客力・ 経済波及 効果	メリッ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅を核とする交通結節点としての利便性を活かし、スポーツの他、大規模イベント等の開催により集客性を高めることで、交流の拡大が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅の近郊における総合的なスポーツの拠点となるとともに、大規模イベント等の開催により集客性を高めることで、交流の拡大が見込まれる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅を利用して球技場を訪れる人が、駅周辺に留まることなく、駅を起点として、県内各地を周遊する仕組みづくりが必要になる。 ・リニア駅利用者等のための観光交流機能や産業振興機能を整備することを検討することが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者を増加させるため、利用用途を多様化し、稼働率や集客力を向上させる取り組みが必要になる。 ・総合球技場利用者をはじめ様々な来場者のための飲食・物販などの集客機能の整備を検討することが求められる。
発信性	メリッ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅と球技場が一体的なランドマークとなり、山梨ならではの特徴ある施設として、国内外への情報発信性を有することが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本県を代表する総合的なスポーツの拠点として、国内外への情報発信性を有することができる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅前という立地特性や総合球技場自体の機能・規模だけでなく、本県の自然や環境などを含めて情報発信していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的なスポーツ拠点という立地特性や総合球技場自体の機能・規模だけでなく、本県の自然や環境などを含めて情報発信していく必要がある。
防災機能	メリッ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅に近接した防災拠点として、防災機能を強化できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災活動拠点である小瀬スポーツ公園と一体化することで防災機能を強化できる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・JR東海、NEXCO中日本、地元市等と連携して効果的な防災機能を発揮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の防災機能と調整しながら、更なる機能の強化を図る必要がある。

委員会においては、2候補地案について、双方にメリットや課題が認められ甲乙付けがたい状況にあり、候補地を1箇所に絞ることは難しいなどの意見があった。

こうしたことから、本委員会としては、総合球技場の建設候補地を1箇所に絞ることはせず、以下の2箇所を候補地として併記することとする。

なお、建設地の決定に当たっては、生活環境に最大限配慮するなど、地域住民の理解を得ながら検討することが望まれる。

■リニア駅前（リニア駅周辺整備地内）

■小瀬スポーツ公園周辺

■委員会関連資料

1 総合球技場検討委員会設置運営要領

(設置)

第1条 総合球技場整備に向け、その施設の機能・規模、整備手法、運営方法等を調査・検討するため、総合球技場検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、委員10人以内をもって構成する。

2 委員は、識見を有する者のうちから知事が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

4 委員長は、委員の互選による。

5 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。

6 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

7 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の事項について検討する。

(1) 総合球技場の機能・規模

(2) 総合球技場の整備・運営手法

(3) 総合球技場の整備候補地の選定

(4) その他

(会議の運営)

第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、山梨県総合政策部政策企画課において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年6月3日から施行する。

2 総合球技場検討委員会委員名簿

(五十音順)

氏 名	役 職 等
委員長 さ さ き くにあき 佐々木 邦明	山梨大学大学院総合研究部 教授
副委員長 た な か ゆうこう 田中 佑幸	公認会計士
あ だ ち し ん い ち ろ う 足立 慎一郎	日本政策投資銀行地域企画部 PPP/PFI推進センター 次長
あ る が けん 有賀 健	山梨県ラグビー・フットボール協会 会長
う み の か ず ゆ き 海野 一幸	山梨県サッカー協会 副会長
か わ む ら ゆ り 河村 由里	山梨青年工業会 元会長 (株)昭栄精機 代表取締役社長
こ はやし あきら 小林 明	山梨県商工会議所連合会 専務理事
こ み や ま か な め 小宮山 要	山梨県アメリカンフットボール協会 会長
さ と う ひ と し 佐藤 仁司	日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)スタジアム推 進グループ グループマネージャー
の む ら ち か こ 野村 千佳子	山梨学院大学経営情報学部 教授

(敬称略)